

彙

報

2025 年（令和 7 年）4 月～2026 年（令和 8 年）3 月

研 究 状 況 (2025 年度)

課題公募班

中日の近代哲学・思想の交差とその実践

班長 廖 欽彬

研究期間 2023 年 4 月-2026 年 3 月（3 年目）

研究班員

所内：福家崇洋，石川禎浩，呉孟晋

学内：出口康夫（文学研究科），上原麻有子（文学研究科），カクミンソク（人間・環境学研究科），張潔（文学研究科），安部浩（人間・環境学研究科），Niels VAN STEENPAAL（教育学研究科），Cerde Sova P. K.

学外：廖欽彬（中山大学哲学系），鈴木将久（東京大学大学院人文社会系研究科），張政遠（東京大学大学院総合文化研究科），秋富克哉（京都工芸繊維大学基礎科学系），植村和秀（京都産業大学法学部），渡辺恭彦（大阪産業大学），久野譲太郎（同志社大学），ロマリク・ジャネル（立命館大学），伊東貴之（総合研究大学院大学文化科学研究科），蘇文博（総合研究大学院大学文化科学研究科），王頌（北京大学哲学系宗教学系），唐文明（清華大学哲学系），張偉（中山大学哲学系），盛福剛（武漢大学哲学学院），朱天曙（北京大学美学与美育研究中心），孫彬（中山大学哲学系）

研究実施内容

2025 年

5 月17日 第 14 回共同研究会

司会：廖欽彬（中山大学）

体験と思索 ― 田中正造の環境運動

発表者：安部 浩

（人間・環境学研究科）

司会：ロマリク・ジャネル

戸坂潤の空間論

発表者：服部敬弘（同志社大学）

司会：福家崇洋

三木清のパスカルと田辺寿利のパスカル

ル：フランス哲学とフランス社会学の

交差性

発表者：近藤和敬（大阪大学）

6 月7日 第 15 回共同研究会

司会：渡辺恭彦（大阪産業大学）

W. パウアーの異端理論の検討

発表者：津田謙治

司会：廖欽彬（中山大学）

井筒俊彦の「東洋哲学」とは何か

発表者：小野純一（自治医科大学）

司会：福家崇洋

交差する親鸞とマルクス主義 ― 近代

日本における仏教思想の再編成過程と

して

発表者：近藤俊太郎

（本願寺資料研究所）

7 月4日 第 16 回共同研究会

司会：廖欽彬（中山大学）

合評会：植村和秀『文部省の国体明徴

政策 ― 思想はどのようにして政策に

なるのか』（創元社，2025 年）

- 発表者：須永哲思
発表者：鷲澤遼祐
発表者：福家崇洋（京都大学）
コメンテーター：植村和秀（京都産業大学）
- 8月9日 第17回共同研究会【国際シンポジウム】
東アジア哲学における儒教道の対話
— 近現代の視点から 司会：伊東貴之（国際日本文化研究センター）
中国哲学史、思想史と学術史研究との関係 発表者：鄭 開（北京大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
近代東アジアの儒教道に登場した他者の視線 — 朝鮮を中心に
発表者：朴洪植（大邱韓医大学）
司会：石井公成（駒沢大学）
From Coexistence to Co-becoming:
An Ethical Reinterpretation of Ontological Interdependence in the Chinese
Hua-Yen School
発表者：嚴瑋泓（成功大学）
司会：干春松（北京大学）
近代日本における中国学・東洋学の成立と概念編制 発表者：伊東貴之（国際日本文化研究センター）
司会：福家崇洋
Philosophical Characteristics of East Asian Leadership: Focusing on Confucian Thought
発表者：高在錫（成均館大学）
司会：嚴瑋泓（成功大学）
『先代旧事本紀大成経』における儒仏神の三教鼎立思想の形成
発表者：石井公成（駒沢大学）
司会：郭旻錫
近代東アジア仏教の西洋学への応答と文化的自覚
発表者：李海濤（山東大学）
司会：李海濤（山東大学）
世俗倫理教説としての仏教理解 — 富

- 永仲基『出定後語』の位置
発表者：福谷 彬
司会：張 政（中山大学）
ベトナム哲学者・黎貴惇の『芸台類語』における理氣の形態と修養の工夫
発表者：陳康寧（成功大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
コメンテーター：鄭 開（北京大学）
干春松（北京大学）
高在錫（成均館大学）
李 樺（中山大学）
永田知之
コメンテーター：張 政（中山大学）

- 8月30日 第18回共同研究会
司会：ロマリク・ジャネル（立命館大学）
合評会：藤田正勝『評伝 田辺元 — 私の希求するところは真実の外にはない』
発表者：杉村靖彦
発表者：鬼頭葉子（同志社大学）
発表者：竹花洋佑（福岡大学）
発表者：廖欽彬（中山大学）
コメンテーター：藤田正勝

- 9月8日 第19回共同研究会
司会：福家崇洋（京都大学）
竹内好における翻訳の問題
発表者：鈴木将久（東京大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
田岡嶺雲における「数奇なる思想の謎」— 明治期における中日交流史の忘却された一断片 —
発表者：牧野英二（法政大学）
司会：福家崇洋
『新民叢報』創刊号に見る中日の近代哲学・思想の交差：梁啓超と浮田和民
発表者：石川禎浩
- 9月13日 第20回共同研究会 Workshop: Vietnam and East Asian Intellectual Currents Transcending the Way of King

and Hegemon: The Unique Contribution of Daoist Political Philosophy

發表者：Zheng Kai
(Dept. of Philosophy,
Peking University)

Body, Mind and Consciousness: Comparative Reflections

發表者：Yao Zhi Hua
(Department of Religion, The Chinese
University of Hong Kong)

Mind-Substance (Xinti) and the Six Classics: The Internal Logic of the Yangming School's View of Classical Studies

發表者：Chen Chang
(Dept. of Philosophy,
Sun Yat-sen University)

A Tentative Discussion on the Idea of "Using the Spring and Autumn Annals as a New King" in the Zuo Zhuan

發表者：Huang Sheng-sung
(Dept. of Chinese Literature,
National Cheng Kung University)

Phenomenology and Marxism in Derrida: Trần Đức Thảo and Walter Benjamin

發表者：Daisuke Kamei
(Ritsumeikan University,
Faculty of Letters)

The Tonkin Free School and East Asian Reformist Thought: Modernization, Texts, and Intertextuality

發表者：Nguyen Nam
(Fulbright University)

Vietnam Phan Châu Trinh, Japan and the Discourse of Political Eclecticism

發表者：Van Thanh
(Le The Australian
National University)

Lĩnh Nam dật sử in Nam Phong: Nguyễn Bá Trắc & Alternative Geographic Imaginaries

發表者：Alan Dai (Ph. D. Student)

UCLA Terminology for Vietnamese Language and Chinese Characters on the Journal Tạp chí Nam Phong

發表者：Junichi Iwatsuki
(The University of Tokyo)

Japan Modern Japanese Asianism and Vietnam

發表者：Takahiro Fuke

Vietnamese Intellectuals and the National Issue in Travelogues about East Asia

發表者：Nguyen Phuong Thao
(Institute of Literature,
Vietnam Academy of Social Sciences)

The Co-occurrence of Confucianism – Buddhism – Taoism in Nguyễn Công Trứ's Poems

發表者：Đào Thị Hải
(Thanh & Nguyễn Minh Thu Hanoi
Open University)

Institute of Literature Vietnamese Xung: Nôm Prose Translation as a Local Form of Literary Sinitic Exegesis

Albert Errickson Ph. D. Candidate,
Columbia University Vietnamese Fūdo

Cheung Ching-yuen Dept. of Area Studies, The University of Tokyo
Modernization of Buddhism in Japan, Taiwan, and Vietnam

發表者：Chin-ping Liao
(Dept. of Philosophy,
Sun Yat-sen University)

The Conference of Four Teachings: Towards A Confucian-Christian Alliance

發表者：Hoàng Đoan
(Trang University of Social Sciences
and Humanities, VNU)

Certain Trends in Research of China's Soft Power in Vietnam Since Early 21st Century – A Paradigmatic Perspective

發表者：Trần Thị Thuỷ
(Institute of China Studies)

- Vietnam The Early Thought of Thich Nhất Hạnh: His International and Interreligious Relations in View of Christianity 2026 年
 発表者：Norimasa Fujimoto (Vietnam Japan University, VNU)
 9 月 26 日 第 21 回共同研究会
 司会：廖欽彬 (中山大学)
 西洋独占主義的な哲学観の生成と終焉 — 欧米と日本におけるメタ哲学的物語
 発表者：Bret Davis (Loyola University Maryland)
 9 月 27 日 第 22 回共同研究会
 司会：孫 彬 (中山大学)
 上山春平のマルクス史観解釈について
 発表者：渡辺恭彦 (大阪産業大学)
 愚劣さを乗り越えて人間へと回帰する：中井正一の信じた芸術の世界
 発表者：織田和明 (大阪大学)
 司会：廖欽彬 (中山大学)
 田辺元の政治哲学 発表者：嶺 秀樹
 田辺元の政治哲学
 司会：渡辺恭彦 (大阪産業大学)
 桑木敏翼の「認識論的論理学」
 発表者：満原 健 (奈良県立大学)
 「場所的論理」はどのような意味で「論理的」なのか
 発表者：孫 彬 (浙江大学)
 10 月 18 日 第 23 回共同研究会
 司会：福家崇洋 (京都大学)
 明治日本における「保守—革命」の一元流 — 蘭文脈から読む福澤諭吉
 発表者：大久保健晴 (慶應大学)
 司会：廖欽彬 (中山大学)
 “Psychologizing Schelling in Nishitani’s Thought” (「西谷思想におけるシェリングの心理化」)
 発表者：Sova P. K. Cerda (京都大学)
 発表者：呉孟晋 (京都大学)
 第二回古香雅集
 発表者：朱天曙、呂歆呼 (北京言語大学)
- 『中国書画』
 1 月 16 日 第 24 回共同研究会
 司会：廖欽彬 (中山大学)
 日中近代 200 年 往還する文化のモデルロード
 発表者：劉建輝 (国際日本文化研究センター)
 司会：福家崇洋
 「魯迅」の誕生について — 日本留学期を中心に
 発表者：李冬木 (佛教大学)
 2 月 20 日 第 25 回共同研究会 【国際シンポジウム】 二十世紀哲学における唯物論的弁証法の展望 — フランスと日本、そして両者の媒介としてのチャン・デュク・タオ
 司会：亀井大輔 (立命館大学)
 弁証法の未来 — デリダ、メルロ=ポンティ、アドルノ (L’avenir de la dialectique. Derrida, Merleau-Ponty, Adorno)
 Alain Patrick Olivier (ナント大学)
 司会：廖欽彬 (中山大学)
 ジャック・デリダとチャン・デュク・タオ — フッサール『幾何学の起源』をめぐる
 発表者：亀井大輔 (立命館大学)
 物質と記号 発表者：黄雅嫻 (台湾・中央大学哲学研究所)
 「理論」と「実践」の狭間で — 河上肇と「絶対的非利己主義」への途
 発表者：福家崇洋 (京都大学)
 司会：福家崇洋 (京都大学)
 田辺哲学におけるマルクス
 発表者：廖欽彬 (中山大学)
 チャン・デュク・タオの弁証法的現象学とその対象
 発表者：ロマリク・ジャネル (立命館大学)
 司会：亀井大輔 (立命館大学)

コメンテーター：加國尚志
(立命館大学)

コメンテーター：森本淳生

2月21日 第26回共同研究会

司会：秋富克哉(京都工芸繊維大学)

廖欽彬・秋富克哉・福家崇洋編『越境
する知としての西田哲学』

発表者：岡田勝明(姫路獨協大学)

発表者：板橋勇仁(立正大学)

発表者：長岡徹郎(大阪大学)

中国生活文化の思想史

班長 名和敏光

研究期間 2023年4月-2026年3月(3年目)

研究実施状況

本年度は11回の研究会(うち1回は「東アジア
伝統科学における自然と人間」班との合同開催)を
開催して計18題の研究発表を実施し、また10回の
虎溪山漢簡「食方」読書会を開催して、計44簡の
校訂文作成、訳注検討をおこなった。研究会では成
果論文集収録予定論文の予備発表を中心とし、明代
日用類書にみえる春薬の基づく医学思想、古代文献
に表れる身体感・疾病感、高句麗古墳壁画に表現さ
れた信仰や生活文化およびその東アジアでの伝播、
剪紙の歴史と現代各地における実践状況、日本の飛
鳥〜平安時代における宮殿空間や朝廷儀礼にみられ
る中国の術数思想などについて研究成果の報告と討
議をおこない、論文集作成に向けて各テーマの考察
を深めた。ほか、8月には人文研アカデミーの企画
として研究セミナー「中国生活文化史研究の諸相」
を開催して4題の研究発表をおこない、一般の聴講
者を含め、広く共同研究の成果を公開する機会を
持った。

研究班員

所内：高井たかね、池田巧、野原将揮、平岡隆二
学外：名和敏光(山梨県立大学国際政策学部)、
浦山さか(東北大学史料館)、重信あゆみ
(大阪大学)、梶島雅弘(和歌山工業高専
総合教育科)、末永高康(広島大学人間社
会科学研究科(文))、塚本明日香(岐阜
大学地域協学センター)、西山尚志(埼玉
大学教養学部)、平澤歩(東京大学大学院

人文社会系研究科)、廣瀬薫雄(岩手大
学平泉文化研究センター)、簀敏裕(岩手
大学教育学部)、劉青(LIU Qing)(弘
前大学人間社会科学部)、長澤文彩(東京
藝術大学音楽研究科)、愛新覚羅闔和
(KAIHE)(立命館大学衣笠総合研究機構)、
池内早紀子(森の宮医療大学)、大形徹
(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究
所)、小倉聖(大東文化大学文学部)、柿
沼陽平(早稲田大学文学学術院)、小山瞳
(関西大学)、島山奈緒子(立命館大学白
川静記念東洋文字文化研究所)、鈴木直美
(明治大学)、成高雅(CHENG Gaoya)(立
命館大学衣笠総合研究機構)、高橋あやの
(大東文化大学東洋研究所)、武田時昌
(関西医療大学)、奈良場勝(國學院大學
栃木短期大学)、水口幹記(立命館大学文
学部)、水野夏子(大阪樟蔭女子大学)、
六車楓(立命館大学)、森和(杏林大学外
国語学部)、山崎(喜多)藍(青山学院大
学文学部)、吉村美香(愛知大学)、豊田裕
章(国際日本文化研究センター)、新井泰
昭(文房四宝鑑璣齋)、清水浩子(公益財
団法人斯文会)、永塚憲治(公益財団法人
研医会)、村上陽子(防災専門図書館)、周
祖亮(ZHOU Zuliang)(広西中医薬大学)、
鄭宰相(JUNG Jaesang)(円光デジタル大
学)、程少軒(CHENG Shaoxuan)(南京大
学文学院)、高潔(GAO Jie)(南京大学文
学院)、平地治美(和光鍼灸治療院・漢方
薬局)

研究実施内容

2025年

4月5日 第21回研究会 司会：高井たかね
明代日用類書の春薬について：『新刻
天下四民便覧三台万用正宗』を中心に
発表者：永塚憲治
(公益財団法人研医会)
4月6日 第19回「食方」読書会 第27・95簡
会読 発表者：高井たかね
5月10日 第22回研究会 司会：高井たかね

- 朝庭に樹立される烏形幢（銅烏幢）と「相風鳥」（伺風鳥）や「鳴鳶」との関係、また日幢・月幢・四神幡旗と鹵簿や遁甲思想との関係について
発表者：豊田裕章
（国際日本文化研究センター）
- 5月11日 第20回「食方」読書会 第23・255・94・24・195・256・27・32簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 6月7日 第23回研究会 司会：高井たかね
暦法中の分卦直日法
発表者：高橋あやの（大東文化大学）
- 6月8日 第21回「食方」読書会 第32・35・40・41・43簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 6月9日 第24回研究会（「東アジア伝統科学における自然と人間」班との合同研究会）
司会：平岡隆二
虎溪山漢簡の方術：占術と医術
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 7月6日 第22回「食方」読書会 第119・45・46・49・50簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 7月6日 第25回研究会 司会：高井たかね
虎溪山漢簡『閼昭』中の戦国時代趙国の故事について
発表者：廣瀬薫雄（岩手大学）
- 8月2日 人文研アカデミー 2025 研究セミナー「中国生活文化史研究の諸相」
司会：名和敏光（山梨県立大学）
玉座の空間としつらえ：唐、宋を中心に
発表者：高井たかね
収穫から調理まで 発表者：村上陽子
（防災専門図書館）
- 『本草蒙筌』考：明代の実用的本草
発表者：西村陽菜
（文学研究科修士課程修了生）
- 「恵方巻」の「恵方」と歳徳神について
発表者：小倉 聖
（大東文化大学）
- 8月3日 第23回「食方」読書会 第58・42・44・96・111簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 10月4日 第26回研究会 司会：高井たかね
院政期前後の易占術について
発表者：奈良場勝
（國學院大學栃木短期大学）
- 中国古代理学管見
発表者：平澤 歩（東京大学）
- 中国正史の災異史料における建物用語の変遷
発表者：塚本明日香（岐阜大学）
- 10月5日 第24回「食方」読書会 第36・39・72簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 11月1日 第27回研究会 司会：高井たかね
陰陽五行説と暮らし：詩歌と季節
発表者：清水浩子
（公益財団法人斯文会）
- 人体と獣体の身体部位名称について
発表者：浦山さか（東北大学）
- 11月2日 第25回「食方」読書会 第81・33・79・95簡会読
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
- 12月6日 第28回研究会 司会：高井たかね
出土文献の身体・生命・疾病
発表者：六車 楓（立命館大学）
韓国国立中央博物館所蔵、高句麗古墳壁画調査報告：龜神塚・双楹塚
発表者：重信あゆみ（大阪大学）
中医学の二極化と再評価の系譜：民国期動乱から現代政策・国際展開までの歴史的考察
発表者：王財源（関西医療大学）
- 2026年
- 1月10日 第29回研究会 司会：高井たかね
清華簡『金縢』篇から見る『尚書』
発表者：藪 敏裕（岩手大学）
- 1月11日 第26回「食方」読書会

第 68・74・82・89 簡会読

発表者：名和敏光（山梨県立大学）

第 97 簡会読 発表者：高井たかね

2 月 7 日 第 30 回研究会 司会：高井たかね
中国北部「剪紙」現地報告：蔚県から
敦煌まで

発表者：望月めぐみ（立命館大学）
大間海域を越える生活信仰：媽祖信仰
の伝播と大間神社

発表者：劉 青（弘前大学）

2 月 8 日 第 27 回「食方」読書会

第 62・93・101・104 簡会読

発表者：高井たかね

3 月 7 日 第 31 回研究会 司会：高井たかね
日中口ウ染における文様表現と女性の
実践：苗族口ウ染を中心とした象徴体
系と制作経験の比較

発表者：王溪岩（京都市立芸術大学）

3 月 8 日 第 28 回「食方」読書会

第 207・26・37・118・105・132・164
簡会読 発表者：高井たかね

「日本のアジア主義」再考 班長 松浦正孝

研究期間 2024 年 4 月-2027 年 3 月（2 年目）

研究実施状況

今年度は 5 回の研究会を実施した。うち 4 人はゲ
スト講師を招き、李炯植（高麗大学）、江藤名保子
（学習院大学）、范艶芬（華南師範大学）、Nattapol
Chaiching（Suan Sunandha Rajabhat University）
の各報告があった（テーマは「研究実施内容」参
照）。班員ではカバーできないテーマを積極的にと
りあげ、研究班の活動として有益な機会となった。
あわせて班員からも水谷智、小堀聡、高潤、立本紘
之、関智英が研究目的にそった報告を行い、活発な
議論が交わされた。2 年目に入って、「戦後」「東ア
ジア」「開発」などのサブテーマが登場し、研究班
論集に向けた方向性がまとまりつつある。次年度以
降の研究班の成果のまとめに向けた議論も同時並行
でおこなった。

研究班員

所内：福家崇洋，小堀聡，石川禎浩，村上衛，温

秋穎

学内：駒込武（教育学研究科）、奈良岡聰智（法
学研究科）

学外：松浦正孝（立教大学法学部）、日向伸介
（大阪大学大学院人文学研究科外国学専
攻）、中尾沙季子（東京大学大学院総合文
化研究科・教養学部）、清水美里（名桜大
学国際学部）、関智英（津田塾大学学芸学
部）、水谷智（同志社大学グローバル地域
文化学部）、立本紘之（法政大学大原社会
問題研究所）、平井健介（甲南大学経済学
部）、高潤（立教大学法学部法学研究科）、
小山俊樹（帝京大学大学院文学研究科）

研究実施内容

2025 年

6 月 14 日 朝鮮におけるアジア主義の軌跡

発表者：李炯植（高麗大学）

〈トランスインペリアル〉な協力と動
員・同化：汎アジア主義におけるラ
シュ・ビハリ・ボースと朝鮮人協力者

発表者：水谷 智（同志社大学）

8 月 7 日 現代中国のアジア政策

発表者：江藤名保子（学習院大学）
インドネシア債権国会議をめぐる日米
関係

発表者：范艶芬（中国華南師範大学）

11 月 15 日 “In Pursuit of the Path of the Rising
Sun: The Quest for a “Nation-
Building” Model after the 1932 Revolu-
tion in Thailand

発表者：Nattapol Chaiching
（Suan Sunandha Rajabhat University）

2026 年

1 月 11 日 国際技術協力協会の 1950 年代 — ある
アジア主義的技術協力構想の顛末

発表者：小堀 聡

清末民初の西南中国と日本

発表者：高 潤（立教大学）

3 月 23 日 昭和初期日本左翼運動におけるイン
ターナショナルイズムと中国に関する一
試論 発表者：立本紘之（法政大学）

戦後アジア主義の可能性と限界 亜細
亜友之会・アジア問題調査会・アジア
協会をてがかりに

発表者：関 智英（津田塾大学）

井俊平（龍谷大学龍谷ミュージアム）、岩
尾一史（龍谷大学文学部）、齊藤茂雄（帝
京大学文学部）、宮本亮一（奈良大学文学
部）、吉田豊（帝京大学文学部）

研究実施内容

漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア古代交通の社
会・経済基盤 班長 慶 昭蓉

研究期間 2025 年 4 月-2028 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

今年度は、タリム盆地に関わる古代印欧語や出土
文献及び歴史地理を集中的に議論した。

前半は、主に海外の研究者を招待して、中央アジ
ア（アフガニスタン及びタジキスタン共和国を含
む）から発見された新出資料、並びに新しいプロ
ジェクトや話題になっているテーマについて紹介し
てもらうとともに、班員間での意見交換を行った。

後半では、マラルバシ（巴楚）～トゥムシユク
（圖木舒克）地域及びその周辺を取り上げ、タリム盆
地西北から発見された胡語文書や探検隊の記録、漢
籍（特に『漢書』西域傳及び『唐書』地理志）を扱
い、討論を行った。

これらの活動を通じて、英国学士院（British
Academy）の研究プロジェクトである CORPUS
INSCRIPTIONUM IRANICARUM (CII) の一つに
採択された、トゥムシユク語分冊（仮題 Ch.-j.
Ching, D. Maue & H. Ogihara (eds.), Tumshukese
volume [Corpus Inscriptionum Iranicarum Part II
Inscriptions of the Seleucid and Parthian periods
and of Eastern Iran and Central Asia]）執筆の準備
のための予備的な議論を進め、言語学・文献学・考
古学・歴史地理学・美術史等といった各領域を専門
とする研究者との議論により、トゥムシユク語（言
語構造上、コータン語に最も近い）の解釈並びに
トゥムシユク語話者の社会経済状況の解明を進める
ことを目指した。

研究班員

所内：フォルテ・エリカ、稲葉穰、向井佑介
学内：慶昭蓉（白眉センター）、荻原裕敏（文学
研究科）、西田愛（白眉センター）
学外：松井太（大阪大学大学院人文学研究科）、
内記理（愛知県立大学日本文化学部）、岩

2025 年

4 月23日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
キックオフミーティング

発表者：慶昭蓉（白眉センター）

5 月14日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[特別講演・オンライン発表]

Revisiting a position of the ex-
“Unknown” script of Hellenistic
Bactria 発表者：Pavel B. Lurje

(State Hermitage Museum
Saint Petersburg)

司会：慶昭蓉（白眉センター）

コメンテーター：吉田 豊
(帝京大学)

6 月12日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[国際学術研究会]

Sacred geography in Bactria and
Sogdiana: cases on non-Buddhist
temples of Bactria and Sogdiana: Some
cases from the Greek Period (?-ca.
145 BCE) to the 8th century (バクト
リアとソグディアナにおける『聖なる
地理』：ギリシャ時代 (?-紀元前 145
年)から 8 世紀の間の事例について)

発表者：Frantz Grenet・

Collège de France / Institut de France
司会：三谷真澄（龍谷大学）

コメンテーター：稲葉 穰

6 月14日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤

[特別講演] The Yuezhi (月氏) and
early Kushans: New documents and
discussions 発表者：Frantz Grenet

- (Collège de France /
Institut de France)
司会：慶昭蓉（白眉センター）
コメンテーター：稲葉 穰
- 7月9日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[発表一] 新疆地域マラルバシ及び
トゥムシュク地域フィールド調査の回
顧 発表者：慶昭蓉（白眉センター）
[発表二] The Silk Road Language
Web: A linguistic prehistory of the
Tarim Basin in Northwest China
発表者：Michaël Peyrot
(Leiden University)
コメンテーター (1)：吉田 豊
(帝京大学)
コメンテーター (2)：松井 太
(大阪大学)
[発表三] A new look at ownership
clauses in Tumshukese sale contracts
発表者：荻原裕敏（文学研究科）
- 11月19日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[発表一] トウムシュク語研究史概観
発表者：荻原裕敏（文学研究科）
[発表二] History and Geography of
Maralbashi-Tumshuk Region: A brief
overview
発表者：慶昭蓉（白眉センター）
- 12月10日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[発表一] トウムシュク語文法概説 I
発表者：荻原裕敏（文学研究科）
[発表二] History and Geography of
Maralbashi-Tumshuk Region: The
Tang 唐 period
発表者：慶昭蓉（白眉センター）
- 2026 年
- 1月28日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[発表一] トウムシュク語文法概説 II
発表者：荻原裕敏（文学研究科）
[発表二] History and Geography of
the Maralbashi-Tumshuk Region:
Part 3 – on two Kuchean (Tocharian
B) tablets presently housed at the
National Library of China
発表者：慶昭蓉（白眉センター）
- 2月18日 漢語・非漢語史料に基づく内陸アジア
古代交通の社会・経済基盤
[発表一] トウムシュク語の命名問題
(1) 発表者：荻原裕敏（文学研究科）
[発表二] History and Geography of
the Maralbashi-Tumshuk Region:
Part 4 – on two Kuchean (Tocharian
B) tablets presently housed at the
National Library of China (final)
発表者：慶昭蓉（白眉センター）
コメンテーター：Michaël Peyrot
(Leiden University (オンライン参加))
- 満洲語檔案に記録されたユーラシア中央域の世界**
班長 承 志
- 研究期間
2025 年 4 月-2028 年 3 月（1 年目）
研究実施状況
本年度は、中国第一歴史檔案館所蔵の『清代新疆
満文檔案彙編』（第 1 冊）を中心に、満洲語檔案の
組織的解説を主軸に据え、清朝の西漸過程における
支配実態を追究した。
年間計 8 回の共同研究会を通じ、特に雍正期の
ジュンガル投降者による「供述記録」を精読した。
その結果、指導層における凄惨な内訌や軍事能力の
実態に加え、ハミ等辺境におけるムスリム兵の登用
といった多民族協働の実像を実証的に解明した。
研究基盤の構築においては、史料上の地名記述を
精査し、広域拠点・駅伝、ハミ周辺、アルタイ山脈
からなる GIS ベースマップを完成させ、歴史情報
の空間的な可視化を実現した。併せて、人名・地名
索引を網羅したデータベース整備を推進し、文献学
と地理情報システムを融合させた研究基盤を整えた。
本年度は計 5 件の研究発表と、計 8 名による文書読

解発表を実施した。

研究班員

所内：古松崇志，中西竜也

学内：堀内香里（白眉センター），葉勝（文学研究科），穆林（文学研究科），孟奇（文学研究科），王何葉（文学研究科）

学外：承志（追手門学院大学文学部），児倉徳和（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所），奈良間千之（新潟大学理学部），野田仁（東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所），竹越孝（神戸市外国語大学），赤嶺守（名桜大学），井黒忍（大谷大学），磯部淳史（立命館大学），前田舟子（沖縄大学経法商学部），小沼孝博（東北学院大学），高田友紀（京都外国語大学），新田和馬（沖縄県教育庁文化財課），漢那敬子（沖縄県教育庁文化財課），野村直美（沖縄県教育庁文化財課），ムンクデルゲル（株式会社ジュンガリア），阿風（中国・清華大学歴史系），Alice Crowther（フランス・Ecole Pratique des Hautes Etudes, PSL-University），巴哈提依加漢（中国人民大学国学院），陳詩蘭（中国・江蘇省社会科学院歴史研究所），達力札布（中国・復旦大学歴史系），顧松潔（中国・中央民族大学），長谷川正人（臺灣・国立台湾大学），Joseph Williams（アメリカ・フリーランス翻訳家），孔令偉（臺灣・中央研究院歴史語言研究所），郎超（アメリカ・Harvard University），李典蓉（中国政法大学法律史学研究院），凌鵬（中国・北京大学社会学系），林士鉉（臺灣・国立臺北大学歴史学系），Mårten Söderblom Saarela 馬騰（アメリカ・Ricci Institute for Chinese-Western Cultural History at Boston College），Matthew Sommer（アメリカ・Department of History, Stanford University），Preetam Prakash（アメリカ・Department of History, Stanford University），烏雲畢力格（中国・内蒙古大学），邱媛源（中国社会

科学院歴史研究所），曲強（中国・南開大学歴史学院），孫鵬浩（中国・南京大学歴史学院），田子晃矢（中国人民大学国学院），特木勒（中国・南京大学歴史学院），Veronika Zikmundová（チェコ・Charles University），王天馳（中国・北京大学外国語学院），葉爾達（中国・中央民族大学），張莉（中国・陝西師範大学西北歴史環境與経済社会発展研究院），趙令志（中国・中央民族大学歴史学院），庄声（中国・中山大学歴史系（珠海））

研究実施内容

2025 年

- | | |
|--------|--|
| 4 月12日 | 清代満文史料（ジュンガル関係文書）の読解 1
発表者：承 志（追手門学院大学） |
| 5 月10日 | 清代満文史料（ジュンガル関係文書）の読解 2
発表者：承 志（追手門学院大学）
過去千年間の中央アジアの環境変動について
発表者：奈良間千之（新潟大学） |
| 6 月14日 | 清代満文史料（ジュンガル関係文書）の読解 3
発表者：葉 勝（京都大学外国人共同研究者（JSPS））
中国第一歴史檔案館所蔵文語カザフ語文書の基礎的研究
発表者：デュセンアル・アブディラシム（カザフスタン・ユーラシア国立大学/東京外国語大学） |
| 7 月12日 | 清代満文史料（ジュンガル関係文書）の読解 4
発表者：葉 勝（京都大学外国人共同研究者（JSPS））
カザフスタンの満洲語文書：露清間の国際集会裁判関連史料を中心に
発表者：野田 仁（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所） |
| 10月11日 | 清代満文史料（ジュンガル関係文書）の読解 5 |

- 発表者：承 志（追手門学院大学）
清朝の中央ユーラシア進出における青海
発表者：岩田啓介（筑波大学）
11月8日 清代満文史料（ジュンガル関係文書）
の読解6
発表者：承 志（追手門学院大学）
発表者：田子晃也
（中国人民大学国学院博士後期課程）
清代チベット語档案における敬意記号
について
発表者：池尻陽子（関西大学）
12月13日 清代満文史料（ジュンガル関係文書）
の読解7 発表者：田子晃也
（中国人民大学国学院博士後期課程）
発表者：王何葉
（文学研究科・博士後期課程）
2026年
1月10日 清代満文史料（ジュンガル関係文書）
の読解8 発表者：青波亮太郎
（文学研究科・博士前期課程）
発表者：高田友紀（京都外国語大学）

課題公募班（萌芽研究）

近世・近代の姓氏や戸籍を巡る学際的研究

班長 河合一樹

研究実施状況

本年度は9月8日と3月10日に研究会を開催し、
班員・参加者間での本課題を巡る問題意識や研究成果
を共有した。

9月8日の第一回研究会では、河合一樹・市村俊
太郎の二名が発表を行った。河合発表はこれまでの
自身の研究成果を総括し、近世近代における「姓
氏」「戸籍」の問題の見取り図を示すものであり、
市村発表は日本における「姓氏」「戸籍」を巡る本
課題の前提となる中国の「姓氏」について概要を示
すものであった。

3月10日の第二回研究会では、河合一樹・柿原
和弘・亀山光明の三名による発表を行った。河合発
表は栗田寛を中心に水戸学周辺の「姓氏」「戸籍」
の言説を扱うものであり、柿原発表は日本近現代ミ

ステリー文学における「戸籍」の問題を、亀山発表
は明治維新期における仏教僧に対する「戸籍」編入
や「名字」強制を扱うものであった。

この二回の研究会での総合討議や研究班での打合
せを通して、十分に知識や問題意識を共有し、今後
の研究の為の基盤を作ることができたと考える。

研究班員

所内：福家崇洋

学外：河合一樹（三重大学人文学部）、柿原和弘
（駒澤大学）、亀山光明（武蔵野大学）、廖
欽彬（中山大学哲学系）

研究実施内容

2025年

9月8日 近世・近代の姓氏や戸籍を巡る学際的
研究

日本思想史における姓氏と戸籍の問題

発表者：河合一樹（三重大学）

中国中世における同姓不娶説の変容

発表者：市村俊太郎（三重大学）

コメンテーター：柿原和弘

（駒沢大学）

コメンテーター：亀山光明

（武蔵野大学）

2026年

3月10日 近世・近代の姓氏や戸籍を巡る学際的
研究

栗田寛『氏族考』と『戸籍考』

発表者：河合一樹（三重大学）

近現代ミステリーと戸籍

発表者：柿原和弘（駒沢大学）

明治初期における出家理念と姓氏・戸
籍の相剋

発表者：亀山光明（武蔵野大学）

コメンテーター：市村俊太郎

（三重大学）

日本語史研究方法論の深化・刷新 班長 河瀬真弥

研究期間 2025年4月-2026年3月（1年目）

研究実施状況

本年度は計6回の研究会を開催した。第1回
（2025年6月）では「服部四郎と濱田敦の論争」を

中心的題材として取り上げ、日本語史研究における主観性・客観性の問題について集中的に議論した。第2回では、濱田敦の学問について引き続き考察するとともに、助動詞論・中世萬葉学について新たに考察した。第3回(2025年10月)は「明治中期国語辞書史の語り方」と題し、近代における学知形成の過程を辞書史の観点から検討した。第4回(2025年12月)は『平家物語』を題材に、日本文学研究の方法論的問題を議論した。第5回(2026年2月)は「国語学史と上代特殊仮名遣い研究」をテーマとし、研究方法論の歴史的展開を考察した。第6回(2026年3月15日)は「日本語史研究方法論を問う」と題した公開成果報告会を開催し、本研究班の一年間の成果を広く発信した。

研究班員

所内：劉冠偉，平岡隆二

学内：野中成淳（文学研究科）

学外：河瀬真弥（京都先端科学大学人文学部），
古川大悟（九州大学大学院人文科学研究
院），尾山慎（奈良女子大学文学部）

研究実施内容

2025 年

6月16日 主観の排除を巡って－服部濱田論争
－

発表者：河瀬真弥

（京都先端科学大学）

発表者：古川大悟（九州大学）

8月6日 濱田敦の学問観と学史的背景につい
て・古川の助動詞論からみる日本語史
研究の方法・中世萬葉学からみる日本
語史研究の方法

発表者：古川大悟（九州大学）

発表者：古川大悟（九州大学）

10月5日 明治中期国語辞書史の語り方

発表者：河瀬真弥

（京都先端科学大学）

12月5日 メタ『平家物語』研究の可能性－『平
家物語』研究の軌跡と課題－

発表者：野中成淳

（京都大学大学院文学研究科）

日本語史研究に『平家物語』諸本論は
どう絡むか・『平家物語』諸本論の問

題点－八坂系編－・指向論・認知論
とは－巨視/そもそも論に立つべきこ
と－

発表者：野中哲照（國學院大学）

2026 年

2月20日 「国語学史」と上代特殊仮名遣い研究

発表者：尾山 慎（奈良女子大学）

3月15日 京都大学人文科学研究所・萌芽研究

「日本語史研究方法論の深化・刷新」
班

成果報告会－日本語史研究方法論を
問う－

司会：河瀬真弥（京都先端科学大学）

平家物語研究史を考える

発表者：野中成淳

（京都大学大学院文学研究科）

服部四郎と濱田敦は何をめぐって論争
していたのか

発表者：河瀬真弥

（京都先端科学大学）

中世萬葉学からみる日本語史研究の方
法

発表者：古川大悟（九州大学）

日本語学史・国語学史における文字表
記論のあゆみ－近代から現代へ－

発表者：尾山 慎（奈良女子大学）

コメンテーター：平岡隆二

上古中国における書写の解明：戦国楚簡を中心に

班長 宮島和也

研究期間 2025年4月-2026年3月（1年目）

研究実施状況

2025年5月24日・11月29日・2026年3月21
日に研究会を開催した。研究会では宮島（第1
回）・市原（第2回）・片倉（第3回）の各班員が清
華簡『畏天用身』の訳注を分担し報告と議論を行
なった。訳注では、文献の内容のみならず、字形や
文字遣いなどに着目し、その特徴についての分析も
行われた。

また、それぞれ第1回「上古中国語の「此」と
「是」－指示の性質と語用機能」（市原），第2回
「デジタルデータとして読む中国出土資料」（片倉），
第3回「古漢字の形体変化と書写」（宮島）と題した

研究報告も行い、古代中国の言語や文字、さらには AI に代表されるデジタル技術を活用した研究手法などについて活発な議論が行われた。

宮島・市原の担当した部分の訳注は、『雲漢』（京大中国語学研究会）第 4 号に投稿し、2026 年 3 月末に刊行された。

研究班員

所内：野原将揮

学内：永田航士（人間・環境学研究科）

学外：宮島和也（成蹊大学法学部）、市原靖久（東京大学）、片倉峻平（東北大学）、斎藤賢（東京大学）

研究実施内容

2025 年

5 月 24 日 上古中国における書写の解明：戦国楚簡を中心に

清華簡『畏天用身』の形制・書写について：趣旨説明に代えて

発表者：宮島和也（成蹊大学）

清華大学蔵戦国竹簡『畏天用身』訳注

(1) 発表者：宮島和也（成蹊大学）

上古中国語の「此」と「是」— 指示の性質と語用機能

発表者：市原靖久（東京大学）

11 月 29 日 上古中国における書写の解明：戦国楚簡を中心に

清華大学蔵戦国竹簡『畏天用身』訳注

(2) 発表者：市原靖久（東京大学）

デジタルデータとして読む中国出土資料

発表者：片倉峻平（東北大学）

2026 年

3 月 21 日 上古中国における書写の解明：戦国楚簡を中心に

清華大学蔵戦国竹簡『畏天用身』訳注

(3) 発表者：片倉峻平（東北大学）

古漢字の形体変化と書写

発表者：宮島和也（成蹊大学）

子どもの基地被害に関する歴史的 연구 — 1950 年代の多摩地域に着目して

班長 山口刀也

研究期間 2025 年 4 月 - 2026 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

本研究班では、2 回の資料調査と 11 回の事前研究会・資料検討会、および 2 回の研究会（成果報告会）を実施した。資料調査と研究会の議論では、1950 年代の多摩地域における子どもの基地被害の実態とそれをめぐる人々の動向を明らかにすることを目的とした。調査・検討は中央レベルと地方レベルの双方から行なった。まず、中央レベルでは、第 1 に、学校の基地被害、具体的には騒音被害をめぐめる対策と補償について定めた「日本国に駐留するアメリカ合衆国軍隊の行為による特別損失の補償に関する法律」（以下、特損法）と特損法施行令の制定過程について、第 2 に、騒音被害をはじめとする全国各地の子どもの基地被害について文部省が実施した調査事業について、資料調査と考察・議論を行なった。次に、地方レベルでは、特損法及び同法施行令前後に調達庁や文部省によって基地被害に関する調査や対策・補償事業の拠点として位置づけられた立川市に着目し、その基地被害と騒音対策事業の実態について、資料調査とその検討・考察を行なった。

研究班員

所内：須永哲思

学内：奥村旅人（教育学研究科）

学外：山口刀也（横浜保育福祉専門学校）

研究実施内容

2025 年

4 月 13 日 子どもの基地被害に関する歴史的 연구 — 1950 年代の多摩地域に着目して

発表者：山口刀也

（東北生活文化大学）

司会：須永哲思

コメンテーター：奥村旅人

（教育学研究科）

5 月 1 日 教育学における基地周辺地域

発表者：山口刀也

（東北生活文化大学）

コメンテーター：市川和也

（鳥取大学）

コメンテーター：奥村旅人

（教育学研究科）

- 6月17日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 6月26日 教育学における基地周辺地域
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
コメンテーター：市川和也
(鳥取大学)
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 7月15日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 7月20日 第1回成果報告会 子どもの基地被害
に関する歴史的研究 — 1950年代の文
部省の動向に着目して
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
司会：須永哲思
司会：奥村旅人 (教育学研究科)
朝鮮戦争前後の機雷爆発による民間人
の被害
発表者：藤目ゆき
(大阪大学名誉教授)
コメンテーター：駒込 武
(教育学研究科)
コメンテーター：李伽耶
(教育学研究科)
- 8月16日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
- 9月18日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(東北生活文化大学)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 10月8日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(横浜保育福祉専門学校)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 11月1日 立川基地及び周辺教育機関に関する資
料調査
発表者：山口刀也
(横浜保育福祉専門学校)
発表者：須永哲思
- 11月7日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(横浜保育福祉専門学校)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 12月7日 立川基地及び周辺教育機関に関する資
料調査
発表者：山口刀也
(横浜保育福祉専門学校)
発表者：奥村旅人 (教育学研究科)
- 12月16日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也
(横浜保育福祉専門学校)
司会：須永哲思
コメンテーター：奥村旅人
(教育学研究科)
- 2026年
- 1月12日 子どもの基地被害に関する歴史的研究
— 1950年代の多摩地域に着目して
発表者：山口刀也

(横浜保育福祉専門学校)

司会：須永哲思

コメンテーター：奥村旅人

(教育学研究科)

2月14日 第2回成果報告会 学校をめぐる基地
騒音の対策・保障に関する歴史的研究

発表者：山口刀也

(横浜保育福祉専門学校)

司会：須永哲思

司会：奥村旅人(教育学研究科)

山口報告へのコメント

コメンテーター：宮澤孝子

(宮城教育大学)

コメンテーター：張彩薇

(教育学研究科)

コメンテーター：李伽耶

(教育学研究科)

班員公募班

中国社会経済制度の再定位 班長 村上 衛

研究期間 2024年4月-2027年3月(2年目)

研究実施状況

本年度は全て対面とオンラインの併用で実施し、計18回の研究会を行い、19人が報告を行い、国内外からのべ759人の参加を得た。報告は基本的に日本語で行われたが、1人は中国語、1人は英語で行った。報告者は9名が学外に所属し、7名が大学院生・PDなどの若手であり、うち1回は修士論文の予備報告を行った。報告者は2週間前にレジュメを提出し、当日はおおむね報告90分、コメント・討論90~120分という時間配分で行われた。報告内容は多岐にわたるが、人文科学と社会科学の学問の融合を進めることができた。コメンテーターは専門の近い方を全国から招聘し、19名のコメンテーターのうち、18名は学外からの招へいであった。なお、本研究班と関連して世界経済史会議でパネルを組織したほか、現代中国研究センターでは中国共産党史に関する合評会を開催し、研究班の枠を超えた議論を行うとともに、TOKYO漢籍セミナーでもその成果を広く公開することができた。

研究班員

所内：村上衛、石川禎浩、岡田悠希、温秋穎、呉孟晋、小堀聡、平岡隆二、古松崇志

学内：王智傑(文学研究科)、小野寺史郎(人間・環境学研究科)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、塩出浩之(文学研究科)、鈴木秀光(法学研究科)、王何葉(文学研究科)、関藝蕾(文学研究科)、金子豊(文学研究科)、吉琛佳(社会学研究科)、黄望舒(人間・環境学研究科)、蔡佑佳(人間・環境学研究科)、津守陽(人間・環境学研究科)、中島大知(文学研究科)、長友剛輝(経済学研究科)、箱田恵子(文学研究科)、播磨美宥(人間・環境学研究科)、彭皓(文学研究科)、穆林(文学研究科)、孟奇(文学研究科)、望月みわ(文学研究科)、葉勝(文学研究科)、劉浩然(人間・環境学研究科)、羅亜妮(文学研究科)

学外：大坪慶之(三重大学教育学部)、小川道大(東京大学東洋文化研究科)、梶谷懐(神戸大学経済学研究科)、木越義則(名古屋大学経済学研究科)、木村可奈子(東北大学大学院国際文化研究科)、久保茉莉子(埼玉大学人文社会科学研究科)、小林亮介(九州大学大学院比較社会文化研究院)、多賀良寛(大阪大学文学研究科)、塩谷哲史(筑波大学人文社会系)、漆麟(鳥取大学地域学部)、周鑫(大阪大学文学研究科)、周俊(神戸大学国際文化学研究科)、城山智子(東京大学経済学研究科)、田口宏二郎(大阪大学文学研究科)、団陽子(東京大学大学院総合文化研究科)、張琯(東京大学大学院文学研究科)、張子康(長崎大学教育学部)、趙楚楚(東京大学総合文化研究科)、富澤芳亜(島根大学教育学部)、豊岡康史(信州大学人文学部)、比護遙(金沢大学国際基幹教育院)、丸田孝志(広島大学大学院総合科学研究科)、望月直人(琉球大学国際地域創造学部)、岩本真利絵(京都府立大学文学研究科)、易星星(兵庫県立大学国際商経学部)、王

艶文（京都府立大学文学研究科），荻恵里子（京都府立大学大学院文学研究科），苗婧（島根県立大学基礎教養部），堀地明（北九州市立大学外国語学部），石川亮太（立命館大学経営学部），殷晴（同志社大学グローバル地域文化学部），上田貴子（近畿大学文芸学部），岡本隆司（早稲田大学大学院教育・総合科学学術院），王佳超（関西大学東アジア文化研究科），王旻（立命館大学歴史都市防災研究所），夏磊（早稲田大学経済学研究科），郭まいか（ノートルダム清心女子大学国際文化学部），郭夢垚（神奈川大学外国語学研究科），加藤雄三（専修大学法学部），神田さやこ（慶應義塾大学経済学部），菊池一隆（愛知学院大学文学部），木下慎梧（同志社大学法学部），瞿艷丹（近畿大学国際学部），久保田裕次（国士舘大学文学部），小堀慎悟（名古屋外国語大学），坂井田夕起子（愛知大学国際問題研究所），佐野実（日本大学経済学部），篠根拓人（慶應義塾大学通信教育部），徐璐（近畿大学国際学部），城地孝（同志社大学文学部），園田節子（立命館大学国際関係学部），田中剛（帝京大学文学部），陳来幸（ノートルダム清心女子大学国際文化学部），土肥歩（青山学院大学青山学院史研究所），根無新太郎（大阪学院大学法学部），トーマス・バレット（慶應義塾大学法学部），範麗雅（日中文化芸術専門学校講師），平井健介（甲南大学経済学部），細見和弘（立命館大学経済学部），宮内肇（立命館大学文学部），村尾進（天理大学），村田雄二郎（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），本野英一（早稲田大学政治経済学術院），森川裕貫（関西学院大学文学部），山崎岳（奈良大学文学部），楊奎松（慶應義塾大学法学部），楊韜（仏教大学文学部），横山雄大（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科），吉田建一郎（大阪経済大学経済学部），周游

（孫文記念館），王怡然（浙江外国語学院），川西孝男（王立地理学会（英国）），莊帆（澳門大学），姜珍重（漢陽大学），谷雪妮（北京師範大学），陳延媛（中央研究院台湾史研究所），都留俊太郎（中央研究院台湾史研究所），彭鵬（中国歴史研究院近代史研究所），楊峻懿（蘇州大学・社会学院歴史系），Hellyer, Robert（Wake Forest University），李培德（香港大学現代語言及文化学院），洪成和（釜山大学），曾美芳（台北医学大学通識教育中心），浜田直也，松村光庸

研究実施内容

2025 年

4 月25日 中国社会経済制度の再定位 19 世紀後半の清朝における西洋人との交際・社交—総理衙門の「賀年」と対駐清イギリス公使館業務の検討を中心に

発表者：荻恵理子（京都府立大学）

コメンテーター：望月直人（琉球大学）

5 月16日 中国社会経済制度の再定位 清代の六部司官の職能と満漢—体・差異の認識—雍正初年の科道官奏摺を手掛かりに

発表者：小野達哉

（大阪経済法科大学）

コメンテーター：鈴木秀光（法学研究科）

5 月30日 中国社会経済制度の再定位 中国における砂糖消費—19 世紀から 20 世紀初頭までを中心に

発表者：岡田悠希（人文科学研究所）

コメンテーター：平井健介（甲南大学）

6 月13日 中国社会経済制度の再定位 華中国策会社集团的肇始：華中鉱業会社的建立と拡張

発表者：李莞婷

（人文科学研究所/武漢大学）

コメンテーター：金丸裕一（立命館大学）

6 月27日 中国社会経済制度の再定位 近代中国

- と塩政
発表者：岡本隆司（早稲田大学）
コメンテーター：神田さやこ（慶應義塾大学）
コメンテーター：小野泰教（学習院大学）
- 7月11日 中国社会経済制度の再定位 晩清期漕運における下河通判の職掌 — 楼汝同撰『惜分陰軒日記』を中心として
発表者：山本舜介（文学研究科）
コメンテーター：田口宏二郎（大阪大学）
- 10月3日 中国社会経済制度の再定位 Entangled Captivities: Imperial Expansion and 18th-century Prisoners of War in the Russian-Qing Borderlands
発表者：Lisa Hellman（人文科学研究所/ルンド大学）
コメンテーター：小沼孝博（東北学院大学）
- 10月17日 中国社会経済制度の再定位 東亜同文書院生と日中戦争 — 満洲事変後の院生の進路を中心に
発表者：李春蓉（人文科学研究所/南京大学）
台湾総督府の華南工作と日本仏教 — 大谷派僧侶との関係を中心に
発表者：坂井田夕起子（愛知大学）
コメンテーター：駒込 武（教育学研究科）
- 10月31日 中国社会経済制度の再定位 近世日中両国商人の経営思想から見える簿記法の相違 — 寧波商人と近江商人を中心として
発表者：張秀春（人文科学研究所/上海立信會計金融学院）
コメンテーター：石川亮太（立命館大学）
- 11月14日 中国社会経済制度の再定位 中国における通信事業統一の過程と日本 — 郵便事業を中心に
発表者：望月みわ（文学研究科）
コメンテーター：千葉正史（東洋大学）
- 11月28日 中国社会経済制度の再定位 新史学の政治性 — 梁啓超「新史学」の連載を中心に
発表者：王艶文（京都府立大学）
コメンテーター：朱 琳（東北大学）
- 12月12日 中国社会経済制度の再定位 清代北京の街道と房屋
発表者：堀地 明（北九州市立大学）
コメンテーター：熊遠報（早稲田大学）
- 12月19日 中国社会経済制度の再定位 長期の20世紀における中国財政の変容と国際的契機
発表者：姜珍亜（人文科学研究所/漢陽大学）
コメンテーター：梶谷 懐（神戸大学）
- 2026年
- 1月23日 中国社会経済制度の再定位 清末における奏摺制度の運用 — 「発抄」を中心に
発表者：殷 晴（同志社大学）
コメンテーター：豊岡康史（信州大学）
- 2月6日 中国社会経済制度の再定位 誰が貨幣をつくるのか — 18~19世紀ベトナムの銭貨供給と華人ネットワーク
発表者：多賀良寛（大阪大学）
コメンテーター：黒田明伸（国立台湾師範大学）
- 2月20日 中国社会経済制度の再定位 東アジア傭船市場の形成と構造 — 20世紀初頭を中心に
発表者：木越義則（名古屋大学）
コメンテーター：趙勝新（同志社大学）
- 3月6日 中国社会経済制度の再定位 明清の狭間 — 戸部尚書倪元璐の改革

とその周辺

発表者：彭 皓（文学研究科）

コメンテーター：城地 孝
（同志社大学）

3月18日 中国社会経済制度の再定位

1870-1880年代日本の対清情報収集と
在華イギリス人 発表者：薛軼群

（人文科学研究所/中国社会科学院）

コメンテーター：トーマス・バレット
（慶應義塾大学）

記憶と身体の人文学—非言語媒体の表現による体
験的記憶継承の可能性を求めて 班長 森谷理紗

研究期間 2025年4月-2028年3月（1年目）

研究実施状況

計7回の研究会をハイブリッド形式で実施した。
第1回は完全対面で開催し、文化人類学、社会学、
芸術学など専門分野を異にしながらも「記憶」や
「身体」に関する研究を行う班員のそれぞれのテー
マ、関心、研究内容を共有し、先行研究や用語認識
について議論を行った。第2回は「モルドヴァ出身
フォトドキュメンタリストの三層の記憶と創作—
オーラルヒストリー、写真、身体性—」、第3回は
「歴史の具現化としてのランドスケープ：阿武隈の
山林生態系・産業史・感覚記憶」、第4回は「農山
村の作業フローから見る景観・身体・記憶—ボッ
ジングの事例を中心に」、第7回は「強制移住、身
体、記憶—ピエール・ブルデューの仕事から」の
題目で、それぞれ芸術学、人類学、農学、社会学の
観点による発表を実施した。第5回は立命館大学国
際平和ミュージアムで班長が主催した企画展との共
催で公開研究会を行った。また、第6回はブラウン
大学の Macarena Gómez -Barris 教授を招聘し、
「トラウマ概念の系譜再考」班と合同開催の講演を
実施した。

研究班員

所内：森谷理紗、酒井朋子、石井美保、直野章子、
楊維公

学内：岩谷彩子（人間・環境学研究科）、ミッ
ヨ・ワダ・マルシアーノ（文学研究科）、
アンドレア デ・アントーニ（人間・環

境学研究科）、岩島史（大学院経済学研究
科）

学外：前田しほ（島根大学法文学部）、石岡丈昇
（日本大学文理学部社会学科）、宇田川彩
（東京理科大学教養教育研究院）、根本雅
也（一橋大学大学院社会学研究科）、オス
カー レン（SALAI International Japan）

研究実施内容

2025年

4月12日 初回、班員各自の研究紹介、関連する
先行研究紹介 司会：森谷理紗

発表者：森谷理紗

コメンテーター：酒井朋子

5月10日 モルドヴァ出身フォトグラファーの三
層の記憶と創作：オーラルヒストリー、
写真、身体性 発表者：森谷理紗

司会：酒井朋子

6月14日 歴史の具現化としてのランドスケ
ープ：阿武隈の山林生態系・産業史・感
覚記憶 発表者：酒井朋子

司会：森谷理紗

7月12日 農山村の作業フローから見る景観・身
体・記憶—ボジシングの事例を中心
に 発表者：Oscar Wrenn

（SALAI International Japan）

司会：森谷理紗

10月11日 企画展「祈りの森—戦時下の音風景
とアートでつなぐ声・語り」共催企画
（立命館大学国際平和ミュージアム）
戦争の記憶と記録の研究からアート実
践へ 発表者：森谷理紗

発表者：Zvoinsky Leonid

（東京藝術大学）

司会：酒井朋子

12月13日 招待講演 The Subject of Witness:
Pacific Diasporic Memory in Impos
sible Times（「トラウマ概念の系譜」
班との共同開催）

発表者：Macarena Gómez-Barris

（ブラウン大学）

司会：直野章子

2026 年

1 月10日 強制移住，身体，記憶 — ピエール・ブルデューの仕事から

発表者：石岡丈昇（日本大学）

司会：森谷理紗

基盤研究班

ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義 班長 森本淳生

研究期間 2021 年 4 月-2026 年 3 月（5 年目）

研究実施状況

令和 7 年度は研究報告会 10 回と訳読会 3 回の計 13 回の研究会を開催した。報告会では昨年度にひきつづき、メンバーがそれぞれの研究テーマについて発表し知見の共有に努めた。具体的には、ジャリ、マラルメ、ボードレール、カーン、ラフォルク、九鬼周造、ヴァレリー、ジャン・ポーラン、ベルギー象徴派、デュジャルダン、ランシエール、バデュウ、コルビエール、バレス、パントマイム、シュウオブ、ルネ・ヴィヴィアン、グールモン、絵画、ジュール・ボア、モンテスキウ、ネルヴァルなどの作家や問題系を考察の中心に据え、詩法・小説・美術・メディア・思想の観点から象徴主義を分析した。人文研の招聘外国人学者であったギ・デュクレ教授にも研究班に参加いただき、アンナ・ド・ノアイユについて報告をいただくことができた。訳読会では、前年度にひきつづきアンリ・ド・レニエの『古のロマネスクな詩』の翻訳・註解を進めた。最終年度終了時までには全てを翻訳することはできなかったが、積み残し箇所は限られているので令和 8 年度に全ての訳・註を完成させたい。

研究班員

所内：森本淳生，菅原百合絵，藤野志織

学内：村上祐二（文学研究科），鳥山定嗣（文学研究科），藤貫裕（文学研究科），椎名隆一（文学研究科博士後期課程），西村真悟（文学研究科博士後期課程），上田泰史（人間・環境学研究科），中筋朋（人間・環境学研究科）

学外：山田広昭（東京大学名誉教授），浜永和希

（東京大学大学院人文社会系研究科），中田峻太郎（東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程），中野知律（一橋大学名誉教授），西村友樹雄（一橋大学大学院言語社会研究科），倉方健作（九州大学大学院言語文化研究院），合田陽祐（山形大学大学院社会文化創造研究科），坂巻康司（東北大学大学院国際文化研究科），中畑寛之（神戸大学大学院人文学研究科），橋本知子（千葉大学大学院人文科学研究科），岡本夢子（滋賀県立大学人間文化学部），辻昌子（大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター），久保昭博（関西学院大学文学部），松浦菜美子（関西学院大学文学部），大出敦（慶應義塾大学法学部），原大地（慶應義塾大学商学部），村上由美（慶應義塾大学法学部），野田農（早稲田大学創造理工学部），立花史（早稲田大学），松村悠子（早稲田大学），浅間哲平（明治大学商学部），渡辺惟央（明治大学文学部），足立和彦（名城大学法学部），海老根龍介（白百合女子大学文学部），学谷亮（中央大学文学部），熊谷謙介（神奈川大学国際日本学部），黒木朋興（上智大学），根岸徹郎（専修大学国際コミュニケーション学部），福田裕大（近畿大学国際学部），袴田紘代（西洋美術館）

研究実施内容

2025 年

4 月26日 「象徴主義研究」例会（31）

Anna de Noailles romancière symboliste? 発表者：Guy Ducrey
Jarry ou le rêve d'une communauté de lectorat élitiste

発表者：合田陽祐（山形大学）

4 月27日 「象徴主義研究」例会（32）

「旅」から自然を考える — ボードレールとマラルメ

発表者：原 大地（慶應大学）
フランス象徴詩の語法に関する試論
— カーンとラフォルクを中心に

- 発表者：松浦菜美子（関西学院大学）
 6月14日 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』（9）
 Le Songe de la Forêt, 初版 p. 127～132.
 発表者：合田陽祐（山形大学）
 発表者：村上由美（慶應義塾大学）
 コメンテーター：森本淳生
- 7月12日 「象徴主義研究」例会（33）
 九鬼周造の押韻論におけるポール・ヴァレリーと歌論（二）— ソネットを手掛かりに
 発表者：藤貫 裕（文学研究科）
 ジャン・ポーランにおける象徴主義（の不在）と修辞学の再構築
 発表者：渡辺惟央（明治大学）
- 7月13日 「象徴主義研究」例会（34）
 「ベルギー象徴派」の歴史的文脈と地域性
 発表者：岩本和子
 （神戸大学名誉教授）
- エドゥアール・デュジャルダンの初期作品における「音楽」—『読む事典』の項目「音楽」のための覚書
 発表者：西村友樹雄（一橋大学）
- 8月23日 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』（10）
 Le Songe de la Forêt, 初版 p. 132～136.
 発表者：合田陽祐（山形大学）
 発表者：村上由美（慶應義塾大学）
 コメンテーター：森本淳生
- 10月11日 「象徴主義研究」例会（35）
 マラルメのセイレーン—バディウ、ランシエール、メイヤスーのマラルメ論をめぐって
 発表者：坂口周輔（愛媛大学）
 脚韻のテマティック—リシャルによるコルビエール批評
 発表者：小澤 真
 （大阪公立大学国際基幹教育機構）
- 10月12日 「象徴主義研究」例会（36）
- モーリス・バレスにおける象徴主義—ボードレール、プルジュエ、ワーグナーをめぐって 発表者：田中琢三
 （お茶の水女子大学）
 転がる首—19世紀末フランスパントマイムの理解のために
 発表者：中筋 朋
 （人間・環境学研究科）
- 12月13日 「象徴主義研究」例会（37）
 マルセル・シュウォブ再考
 発表者：鈴木重周（南山大学）
 ルネ・ヴィヴィアンの初期恋愛詩について
 発表者：長澤法幸（武蔵野美術大学）
- 12月14日 「象徴主義研究」例会（38）
 レミ・ド・グールモンの言語美学
 発表者：久保昭博（関西学院大学）
 絵画における象徴主義の手法
 発表者：喜多崎親（成城大学）
- 2026 年
- 2月28日 象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』（11）
 Le Songe de la Forêt, 初版 p. 136～139.
 発表者：合田陽祐（山形大学）
 発表者：村上由美（慶應義塾大学）
 コメンテーター：森本淳生
- 3月7日 「象徴主義研究」例会（39）
 Jules Bois 紹介—L'Éternelle Poupée (1894), L'Ève future (1896) を中心に—
 発表者：大野英士（早稲田大学）
 ネルヴァールと象徴の理論
 発表者：辻川慶子（白百合女子大学）
- 3月8日 「象徴主義研究」例会（40）
 ロベール・ド・モンテスキウとマラルメ
 発表者：浅間哲平（明治大学）
 象徴主義「読む事典」：「生成」と「理論」の原稿検討 発表者：森本淳生
 コメンテーター：熊谷謙介
 （神奈川大学）

秦漢法制史料の研究

班長 宮宅 潔

研究実施内容

研究期間 2021年4月-2026年3月(5年目)

2025年

研究実施状況

まず、前年度に引き続き岳麓書院所蔵簡《秦律令(貳)》の会読を進め、第190簡から第250簡までの61簡を読了した。とりわけ長大かつ重要な内容を持つ条文としては、贈収賄への科罰を規定した「治獄受財枉事」令(〔伍〕229～250)を会読し、テキストの誤字・脱字を慎重に検討したうえで、訳注を作成し、そこから読み取れる賄賂罪への科罰原理についても分析を行った。また、前年度から今年度初めに読了した《秦律令(貳)》138～198簡の訳注原稿を整理し、本年度刊行の『東方学報』に寄稿し、掲載された。里耶秦簡〔壹〕の会読もこれと平行して行った。あわせて、この研究班を開催母体として、中国・武漢大学、韓国・ソウル大学と共同での研究会を2回(対面1回、オンライン1回)開催し、戦国秦漢時期の簡牘史料関連の研究報告・討議を行った。

研究班員

所内：宮宅潔，古勝隆一，野原将揮，藤井律之，宋真，陳捷

学内：林怡冰(文学研究科)，魏星(人間環境学研究科)

学外：土口史記(岡山大学)，杉村伸二(福岡教育大学)，飯田祥子(高知大学)，斎藤賢(東京大学)，青木竜一(東京大学)，劉聡(岡山大学)，李晟(岡山大学)，劉潔(岡山大学)，高森勇人(東京大学)，加計翔成(東京大学)，目黒杏子(京都府立大学)，角谷常子(龍谷大学)，鷹取祐司(立命館大学)，佐藤達郎(関西学院大学)，太田麻衣子(国士舘大学)，宗周太郎(大谷大学)，畑野吉則(立命館大学)，安永知晃(関西学院大学)，内山峻(明治大学)，高田菜々子(明治大学)，西真輝(灘中学校・高等学校)，金秉駿(韓国・ソウル大学)，楊長玉(中国・雲南民族大学)，曹天江(中国・中央民族大学)，章瀟逸(中国・武漢大学)

4月4日 岳麓簡会読〔伍〕181-190

発表者：目黒杏子(京都府立大学)

4月11日 岳麓簡会読〔伍〕181-190

発表者：目黒杏子(京都府立大学)

4月18日 岳麓簡会読〔伍〕191-198

発表者：宮宅 潔

4月25日 岳麓簡会読〔伍〕191-198

発表者：宮宅 潔

5月2日 岳麓簡会読〔伍〕191-198

発表者：宮宅 潔

5月16日 岳麓簡会読〔伍〕199-208

発表者：章瀟逸(武漢大学)

5月23日 岳麓簡会読〔伍〕199-208

発表者：章瀟逸(武漢大学)

5月30日 岳麓簡会読〔伍〕199-208

発表者：章瀟逸(武漢大学)

6月6日 岳麓簡会読〔伍〕199-208

発表者：章瀟逸(武漢大学)

6月13日 岳麓簡会読〔伍〕209-217

発表者：青木竜一(東京大学)

6月20日 岳麓簡会読〔伍〕209-217

発表者：青木竜一(東京大学)

6月27日 岳麓簡会読〔伍〕209-217

発表者：青木竜一(東京大学)

7月4日 岳麓簡会読〔伍〕209-217

発表者：青木竜一(東京大学)

7月11日 岳麓簡会読〔伍〕218-228

発表者：西 真輝

(灘中学・高等学校)

7月18日 岳麓簡会読〔伍〕218-228

発表者：西 真輝

(灘中学・高等学校)

7月25日 岳麓簡会読〔伍〕218-228

発表者：西 真輝

(灘中学・高等学校)

9月5日 岳麓簡会読〔伍〕218-228

発表者：西 真輝

(灘中学・高等学校)

9月12日 里耶秦簡会読⑧1524～⑧1536

人 文 学 報

9月19日	発表者：劉 潔（岡山大学）	2月13日	里耶秦簡会読⑧ 1560～⑧ 1566
	岳麓簡会読〔伍〕 218-228		発表者：高森勇人（東京大学）
9月26日	発表者：西 真輝 （灘中学・高等学校）	2月20日	岳麓簡会読〔伍〕 240-250
			発表者：土口史記（岡山大学）
10月3日	里耶秦簡会読⑧ 1524～⑧ 1536	2月27日	里耶秦簡会読⑧ 1560～⑧ 1566
	発表者：劉 潔（岡山大学）		発表者：高森勇人（東京大学）
10月10日	岳麓簡会読〔伍〕 229-239	3月6日	岳麓簡会読〔伍〕 240-250
	発表者：宗周太郎（大谷大学）		発表者：土口史記（岡山大学）
10月17日	里耶秦簡会読⑧ 1524～⑧ 1536	3月13日	里耶秦簡会読⑧ 1567～⑧ 1585
	発表者：劉 潔（岡山大学）		発表者：加計翔成（東京大学）
10月24日	岳麓簡会読〔伍〕 229-239	東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究	
	発表者：宗周太郎（大谷大学）		
10月31日	里耶秦簡会読⑧ 1537～⑧ 1550	班長 矢木 毅	
	発表者：青木竜一（東京大学）	研究期間 2021年4月-2026年3月（5年目）	
11月7日	岳麓簡会読〔伍〕 229-239	研究実施状況	
	発表者：宗周太郎（大谷大学）	最終年度である本年度は『続増漢籍目録』経部小学類について逐冊調査を行い、『続増』経部の調査を完了した。作成した典拠情報については、全国漢籍データベースにリンクさせる形で、逐次公開する予定である。	
11月14日	里耶秦簡会読⑧ 1537～⑧ 1550	研究班員	
	発表者：青木竜一（東京大学）	所内：矢木毅、井口千雪、高井たかね、永田知之、藤井律之、古松崇志、楊維公	
11月21日	岳麓簡会読〔伍〕 229-239	研究実施内容	
	発表者：宗周太郎（大谷大学）	2025年	
12月5日	里耶秦簡会読⑧ 1551～⑧ 1559	4月23日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
	発表者：宮宅 潔		発表者：高井たかね
12月12日	岳麓簡会読〔伍〕 229-239	4月30日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
	発表者：宗周太郎（大谷大学）		発表者：高井たかね
12月19日	里耶秦簡会読⑧ 1551～⑧ 1559	5月7日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
	発表者：宮宅 潔		発表者：高井たかね
2026年		5月21日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
1月9日	岳麓簡会読〔伍〕 240-250		発表者：永田知之
	発表者：土口史記（岡山大学）	5月28日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
1月16日	里耶秦簡会読⑧ 1551～⑧ 1559		発表者：藤井律之
	発表者：宮宅 潔	6月4日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
1月23日	岳麓簡会読〔伍〕 240-250		発表者：藤井律之
	発表者：土口史記（岡山大学）	6月25日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
1月30日	里耶秦簡会読⑧ 1560～⑧ 1566		発表者：藤井律之
	発表者：高森勇人（東京大学）	7月2日	東方文化研究所続増漢籍目録 経部小学類
2月6日	岳麓簡会読〔伍〕 240-250		発表者：古松崇志
	発表者：土口史記（岡山大学）		

7月16日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：古松崇志
7月23日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：古松崇志
10月1日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：矢木 毅
10月22日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：楊維公
11月5日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：井口千雪
11月19日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：高井たかね
11月26日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：永田知之
12月3日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：藤井律之
12月17日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：古松崇志
12月24日	東方文化研究所統増漢籍目録 経部小学類	発表者：矢木 毅

漢籍共同研究システムの構築

班長 ウィッテルン クリスティアン

研究期間 2021年4月-2026年3月(5年目)

研究実施状況

今年度を通しての取り組みは古典中国語のAIでの翻訳を評価して、システムに導入することでした。具体的には今度の前半には成果報告にむけ、班員からの研究報告が活動の中心となりました。後半には、研究班全般での取り組みの一つの成果として「Workshop on AI Translation From Classical Chinese」を開催しました。

研究班員

所内：Wittern, Christian, 安岡孝一, 李媛, 劉冠偉

学内：Francisco Figueroa Medina (総合生存学館)

学外：重田みち (京都芸術大学), Rappo, Gaetan (同志社大学文化情報学部), 守岡知彦 (人間文化研究機構国文学研究資料館), Harbsmeier, Christoph (University of Oslo,

Norway), Schimmelpfennig, Michael (Australian National University College of Asia and the Pacific, Australian Centre on China in the World), Stanley-Baker, Michael (Nanyang Technological University Lee Kong Chian School of Medicine / School of Humanities), Schwermann, Christian (Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature), Wilke, Tobias (Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature), Sehnal, David (Heidelberg University Center for East Asian Studies), Plassen, Jörg (Ruhr University Bochum Department of Religious Studies), Osterkamp, Sven (Ruhr University Bochum Department of Japanese Language and Literature), Fahr, Paul (Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature), Zhao Fudie (University of Oxford, United Kingdom Faculty of Asian and Middle Eastern Studies), Kiel, Valerie (University of Bochum Department of Japanese Languages and Literature), Bréard, Andrea (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg Sinology - Algorithms, Prognostics, and Statistics), Kessler, Florian (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg Sinology - Algorithms, Prognostics, and Statistics), Schmidt, Anja (University of Bochum Department of Japanese Languages and Literature), Diakoff, Harry (Independent Scholar)

研究実施内容

2025年

4月25日 The cash string that unites all things: Exploring the context determination of metaphors with the TLS
発表者：Anja Schmidt

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| | (Ruhr University Bochum) | | (Heidelberg University) |
| 5月9日 | In Search of Parenthesis: Is it Really Absent in Classical Chinese?
発表者: Christian Schwermann
(Ruhr University Bochum) | 12月14日 | Workshop on AI Translation From Classical Chinese 中国经典人工智能翻译研讨会 Day 2 Special Session on Gong yang Zhuan & Guliang Zhuan
発表者: Joachim Gentz
(The University of Edinburgh Special Session on the Analects)
発表者: Michael Lackner
(Erlangen University) |
| 5月23日 | The Function of Preverbal in OC: a Subordinating Adverbial Pro-form?
発表者: Fritz Beck
(Heidelberg University) | | |
| 6月13日 | The Concept and Semantic Field of Resources in Early Chinese Texts
発表者: Christian Schwermann
(Ruhr University Bochum) | 2026年 | |
| 6月27日 | Mining the TLS: Phonological Data and Authorship Analyses
発表者: Jörg Plassen and Sunghye Hwang
(Ruhr University Bochum) | 1月9日 | Japanese Kundoku 訓読 in the Thesaurus: Ideas and Limitations
発表者: Valerie Kiel
(Ruhr University Bochum) |
| 7月11日 | Seeing Through Others' Eyes: Embedded Focalization in Classical Chinese Prose
発表者: Paul Fahr
(Ruhr University Bochum) | | 東アジアの宗教美術と社会 班長 稲本泰生
研究期間 2022年4月-2027年3月 (2025年3月終了から2年延長) (4年目)
研究実施状況
4年目の2025年度も対面・オンラインのハイフレックス形式で研究会を開催し、メンバーの参加形態は各回ともほぼ半々であった。当班では研究所の蔵する拓本資料を活用した造像記の読解を継続的に行ってきたが、2025年度は唐代龍門石窟の長文造像記を精読したほか、検討対象を仏伝図や本生図などの画像を含む資料にも拡げ、文字と画像を照合しつつその意味内容について解釈を試みた。一方でメンバー各人の専門分野に沿った研究報告に力を入れ、中央アジアから東アジアに及ぶ、仏教関連の遺構と遺物を扱った多彩な発表が行われた。具体的にはガンダーラや中国山西省の遺跡、トルファン及び敦煌の絵画の画像解釈、戒律や世界観を説く經典と造像の関係、仏具を含む魏晉南北朝期の金属器の制作技法、仏教関係の画卷(宋~明併行期の作例)の様式と制作背景などが取り上げられ、最新の研究動向に接する機会を得た。 |
| 10月10日 | Current state and desirable directions of the TLS database
発表者: Christian Wittern | | |
| 10月24日 | The role of AI in the TLS Open discussion | | |
| 11月14日 | Request complete translations from selected AI vendors
発表者: Christian Wittern | | |
| 11月28日 | Pipeline for AI Output and display of commentaries
発表者: Christian Wittern | | |
| 12月13日 | Workshop on AI Translation From Classical Chinese 中国经典人工智能翻译研讨会 Day 1 Special Session on Huainanzi
発表者: Christoph Harbsmeier
(University of Copenhagen Special Session on Mencius)
発表者: David Sehnal | | 研究班員
所内: 稲本泰生, 安岡孝一, フォルテ・エリカ, 古勝隆一, 倉本尚徳, 呉孟晋, 向井佑介, 佐藤智水, 大平理紗, 打本和音, 閻志翔, |

王輝錯
 学内：田中健一（文学研究科），大谷弦（文学研究科）
 学外：藤岡穰（大阪大学），齋藤龍一（東京藝術大学），佐藤有希子（奈良女子大学），上枝いづみ（金沢大学（日本学術振興会）），王珏人（大阪大学），内記理（愛知県立大学），井上豪（秋田公立美術大学），伍雅涵（京都府立大学），川瀬由照（早稲田大学），大西磨希子（佛教大学），濱田瑞美（横浜美術大学），篠原典生（中央大学），高橋早紀子（京都産業大学），高志緑（大阪大谷大学），苦名悠（佛教大学），森美智代（早稲田大学），檜山智美（東洋大学），平法子（武庫川女子大学附属総合ミュージアム），石松日奈子（東京国立博物館），田林啓（大阪市立美術館），瀧朝子（大和文華館），北村一仁（河南農業大学），呉虹（復旦大学），黄盼（中国社会科学院考古研究所），易丹韵（中国社会科学院考古研究所），黄蓉（浙江大学），焦樹峰（陝西師範大学）

研究実施内容

2025 年

- 4 月 8 日 研究報告「澤村専太郎・長谷川路可と西域絵画模本の制作」 稲本泰生
 4 月 22 日 研究報告「信貴山縁起絵巻と宋代絵画」 苦名 悠
 5 月 13 日 龍門造像記会読「唐紀國太妃韋氏造敬善寺石像記」 稲本泰生
 5 月 27 日 研究報告「玄奘の訪れたガンダーラの四都城について」 内記 理
 6 月 10 日 龍門造像記会読「唐騫公夫人造阿弥陀観音大至二菩薩像記」 田中健一
 6 月 24 日 研究報告「『梵網経』と東アジアの仏教美術」 闇志翔
 7 月 8 日 研究報告「『普度明太祖長卷』と明初の仏教絵画」 高志緑
 7 月 22 日 龍門造像記会読「唐騫公夫人造阿弥陀観音大至二菩薩像記」（続き）

田中健一

- 10月14日 研究報告「魏晋南北朝時代における青銅容器の製作技法について—響銅を中心に」 伍雅涵
 11月25日 人文研所蔵画像拓本再読（棲霞寺舍利塔浮彫仏伝図） 稲本泰生
 12月 9 日 人文研所蔵画像拓本再読（東魏・道俗九十人等造像碑） 稲本泰生
 12月23日 研究報告「トルファン・アスターナ古墳群出土唐代「困碁仕女図屏風」をめぐる諸問題」 森美智代
 1 月 13 日 研究報告「敦煌・莫高窟第 154 窟の諸問題について」 王珏人
 1 月 27 日 研究報告「北朝後期河東北部の軍事拠点と地域社会—玉壁城およびその周辺」 北村一仁

文化資源と文化運動

班長 菊地 暁

研究期間 2023 年 4 月-2027 年 3 月（2026 年 3 月終了から 1 年延長）（3 年目）

研究実施状況

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運動」という観点から再考する本研究班は、今年度は、「日本民俗学の父」と称される柳田国男の生誕 150 周年にちなみ、民俗学運動を中心とした学術資料の整理・分析に関するワークショップを開催した。そのほか、生活史資料の収集・整理、兵庫県の学校資料の収集と紹介、京都市左京区に関する文化資源の収集・展示事業に協力した。

研究班員

所内：菊地暁、藤野詩織

学外：矢野敬一（静岡大学教育学部），真鍋昌賢（北九州市立大学文学部），高木史人（近畿大学総合社会学部）

研究実施内容

2025 年

- 5 月 9 日 民俗学分野における学生研究会の系譜に関する予備的検討
 発表者：真鍋昌賢（北九州市立大学）
 コメンテーター：高木史人（近畿大学）
 司会：菊地 暁

2026 年

2 月19日 柳田国男の栄光と挫折：貴族的エリート官僚と民俗学

発表者：矢野敬一（静岡大学）

コメンテーター：高木史人（近畿大学）

司会：菊地 暁

3 月27日 国史学研究室助手・柴田実の憂鬱

発表者：菊地 暁

『明治大正史世相篇』の実験

発表者：佐藤健二（東京大学）

モノ・知識・環境

班長 瀬戸口明久

研究期間 2023 年 4 月-2026 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

令和 7 年度には、7 回の例会、2 回の合評会、大学院生ワークショップ、映画上映会を開催した。まず例会では、風呂、人工頭脳、ツシマヤマネコ、エレベーター、マッサージ師、犬など、さまざまなモノと生き物、身体が取り上げられ、歴史学、社会学、人類学などの多様な視点から科学技術について論じられた。そのほか環境史のヒストリオグラフィーをめぐる例会も開催された。合評会では、伊藤憲二『励起』と、“‘Science Wars Before the ‘Science Wars’”（Historia Scientiarum 特集号）が取り上げられ、それぞれの歴史叙述について議論した。映画上映会で上映した「Moving Earths」は 2019 年にフランスで製作され、日本では 2 回目の上映となる。ブルーノ・ラトゥールの世界観を提示した映画である。以上のような活動を通じて、①人工物・生き物・人間がつくりだしている世界について検討し、②過去の科学技術論について思想史的な検討をおこない、③多くの大学院生の参加を得て、若手研究者とも意見交換することができた。

研究班員

所内：瀬戸口明久、石井美保、藤原辰史、伊藤順二、ERICSON, Kjell、小堀聡、平岡隆二、岡澤康浩、久保旭、太田知宏

学外：中尾麻伊香（広島大学大学院人間社会科学研究科）、森下翔（山梨県立大学地域人材養成センター）、標葉隆馬（慶應義塾大学

大学院メディアデザイン研究科）、河村賢（大阪経済大学国際共創学部）、都留俊太郎（中央研究院台湾史研究所）、藤本大士（ハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター）、KNAUDT, Till（ライプツィヒ大学東アジア研究所日本学）

研究実施内容

2025 年

4 月18日 「モノ・知識・環境」4 月例会

風呂と国民性：「清潔さ」が作る社会の輪郭

発表者：川端美季（立命館大学）

5 月16日 「モノ・知識・環境」5 月例会

1950 年代～1970 年代日本における「人工頭脳」をめぐる

発表者：胡藝澤（文学研究科）

6 月13日 「モノ・知識・環境」6 月例会

「それらしく書く」を越えて、「実践する」には？：エミリ・オゴーマンとアンドレア・ゲイナーの論文から考える新しい環境史

発表者：福元健之（人間・環境学研究科）

7 月19日 公開合評会 伝記から読む科学者の実践 — 伊藤憲二『励起 — 仁科芳雄と日本の現代物理学』

司会：岡澤康浩

司会：河村 賢（大阪経済大学国際共創学部）

発表者：瀬戸口明久

主旨説明 コメンテーター：喜多千草（文学研究科）

コメンテーター：小長谷大介（龍谷大学）

コメンテーター：瀬戸口明久

発表者：伊藤憲二（文学研究科）

リプライ

10月17日 「モノ・知識・環境」10 月例会

フンからみるツシマヤマネコの保全

発表者：田中瑠莉

（人間・環境学研究科）

「安全・安心・快適」の生成と更新：

- 〈エレベーター〉の／によるバリアフリー化にむけた開発・設計過程のインフラ論的分析
発表者：水田綾奈（神奈川工科大学）
- 11月21日 合評会「グローバルヒストリー・科学思想・蘭学」（「東アジア伝統科学における自然と人間」と共催）
主旨説明 発表者：岡澤康浩
コメンテーター：岡本拓司（東京大学）
コメンテーター：橋本真吾（北里大学）
- 12月19日 「モノ・知識・環境」12月例会
探索される身体感覚と知識：エスノメソドロジー・会話分析の視点から
発表者：坂井愛理（追手門学院大学）
- 2026 年
- 1 月23日 「モノ・知識・環境」1月例会
Territorializing through Canines: Jindo Dogs, Science, and Biological Territorialization in Transwar Japan and Korea 発表者：Jaehwan Hyun（Pusan National University）
- 1 月23日 Graduate Workshop on East Asian Technoscience and Environment In Search of the “Korean Tiger”: The Birth of Hodori and the Return of Tigers in 1980s-1990s South Korea
発表者：Soomin Kim（University of Toronto）
Typhoid Vaccine and the Rise of an Ecological View in Japanese Bacteriology 発表者：Kyoryen Hwang（Seoul National University）
The Colonial Coast: Japan's Empire in Korea between Land and Sea
発表者：Ethan Barkalow（Georgetown University）
- 2 月20日 「モノ・知識・環境」2月例会
電源三法交付金制度の誕生と成長 — 1970 年代を中心として
- 発表者：小堀 聡
3 月27日 映画上映会「Moving Earths」
司会：松谷容作（追手門大学）
「Moving Earths」上映
平野暁人（同時通訳）
ブルーノ・ラトゥールと美学の問題：誰が芸術を必要とするのか
発表者：岡本源太（國學院大學）
- 高度経済成長期の生活史 班長 藤原辰史
研究期間 2023 年 4 月-2028 年 3 月（2026 年 3 月終了から 2 年延長）（3 年目）
研究実施状況
本年度も一ヶ月に一度のペースで『暮らしの手帖』をめぐるさまざまな事象，たとえば，戦時中の暮らしの記録，商品テスト，DIY，歌舞伎との関係などについての発表と討議を行なった。また，暮らしの手帖社での合同調査や，『暮らしの手帖』の初期編集者の聞き取り，商品テストの対象となった企業の技師の聞き取りなども行なった。2028 年の『暮らしの手帖』の展示会に向けて，順調に共同研究を進めている。また，『暮らしの手帖』の会社資料（商品テストや，投稿原稿）についてもデジタル化を進め，情報学と人文学の異分野融合を実験的に進めている。
- 研究班員
所内：藤原辰史，岩城卓二，酒井朋子，石井美保，小堀聡，福家崇洋，瀬戸口明久，菅原百合絵，須永哲思，李英美，小関隆，池田巧，森谷理紗，太田知宏，久保旭
学内：岩島史（経済学研究科），喜多千草（文学研究科）
学外：青木聡子（東北大学文学部），西川和樹（同志社大学），会田綾子（暮らしの手帖社），難波達巳（暮らしの手帖社），西川晃弘（大阪大学），上野小麻里（島根県立美術館），秋元せき（京都市歴史資料館），加島卓（筑波大学人文社会系）
- 研究実施内容
2025 年
5 月12日 今後の研究計画について
発表者：藤原辰史

- 5月20日 暮らしの手帖の元編集者である河津一哉さんへのインタビュー
司会：藤原辰史
- 6月16日 松下電器 OB・松岡政治さん聞き取り
司会：藤原辰史
- 7月7日 商品テストの変化―「商品テスト入門」との比較を中心に―
発表者：太田知宏
- 9月18日-9月19日 暮らしの手帖社での現地調査
- 10月27日 衣（食）住を手づくりする―『暮らしの手帖』1世紀にみる住空間と生活用品へのはたらきかけ 発表者：酒井朋子
- 11月10日 おか平絵日記精読―その1
発表者：小堀 聡
- 12月22日 戦後の演劇評論と暮らしの手帖社―戸板康二の活動に注目して『暮らしの手帖』から『Car Graphic』へ：モーター・ジャーナリズムの起源
発表者：小関 隆
発表者：金 智慧
- 2026 年
- 2月18日 読書会（佐藤八寿子『くていねいな暮らし』の系譜：花森安治とあこがれの社会史）、津野海太郎『花森安治伝―日本の暮らしをかえた男―』
発表者：太田知宏

アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出

班長 稲葉 穰・中西竜也
研究期間 2023 年 4 月-2027 年 3 月（2026 年 3 月終了から1年延長）（3年目）

研究実施状況

本年度は、全 12 回の研究会を開催した。うち 5 回は、アフマド・スィルヒンディー『書簡集』（ペルシア語）の会読を行い、訳注作成作業を進めた。スーフィズムの思想・体験を記した当該テキストは、相変わらず難解でなかなか読み進められないが、読めば読むほど理解が進んでいる手ごたえがある。のこりの 7 回は、班長の研究報告会（1 回）に加え、海外からのゲスト・スピーカーの講演会（都合 6 回、うち 1 回は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文

化研究所との共催。また、1 回は日本語、別の 5 回は英語による）を開催した。個々の研究報告の具体的内容は多岐に渡りながら、いずれも宗教文化の越境や地域の創造・想像をめぐる深い議論を行うことができた。ただ、班長の海外出張やその他の諸事情が重なったため、研究班を開催する回数が当初計画を大幅に下回ったのは反省点である。

研究班員

所内：稲葉穰、中西竜也、FORTE, Erica

学内：慶昭蓉（白眉センター）、帯谷知可（東南アジア地域研究研究所）、今松泰（アジアアフリカ地域研究研究科）、磯貝健一（文学研究科）、對馬稔（文学研究科）、東長靖（アジア・アフリカ地域研究研究科）、岩本佳子（文学研究科）、笹原健（文学研究科）、山口元樹（アジア・アフリカ地域研究研究科）、荻原裕敏（京都大学）、原陸郎（アジア・アフリカ地域研究研究科）、角田哲郎（文学研究科）

学外：BROWNING, Jason（東京大学）、和田郁子（岡山大学）、真下裕之（神戸大学）、伊藤隆郎（神戸大学）、小倉智史（東京外国語大学）、矢島洋一（奈良女子大学）、大津谷馨（東京外国語大学）、海野典子（大阪大学）、嘉藤慎作（滋賀大学）、内記理（愛知県立大学）、宮本亮一（奈良大学）、岩井俊平（龍谷大学）、杉山雅樹（京都外国語大学）、森山央朗（同志社大学）、二宮文子（青山学院大学）、杉山隆一（京都橘大学）、小澤一郎（立命館大学）、檜山智美（東洋大学）、岩尾一史（龍谷大学）、川本正知

研究実施内容

2025 年

4月23日 アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出

Materiality and Manuscripts: Readership and Textual Transmission in Islamic World

司会：近藤信彰
（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

- Unlocking the Archive: Tracing the Trajectories of Manuscripts through Sama'at 発表者: Konrad Hirschler (Centre for the Study of Manuscript Cultures)
Universität Hamburg An Englishman in Baghdad: Claudius James Rich as a collector, patron, and reader of Persian manuscripts 発表者: Yui Kanda (ILCAA Tokyo University of Foreign Studies)
- 4月25日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者: 中西竜也
- 5月9日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
Shahis and Ghaznavids: Spatial and Temporal Encounters in the Northwest Indian Subcontinent 発表者: Filigenzi, Anna (The University of Naples L'Orientale)
- 5月23日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
ゴール朝成立史再論: はじまりの地をめぐって 発表者: 稲葉 穰
- 6月13日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
Special Lectures on the History of Muslims in China 司会: 中西竜也
A Political Demography in Xinjiang?: Empire and Ethnological Encapsulation 発表者: Hai, Peng (University of Pittsuburgh)
Little Meccas and Lost Little Meccas: Destruction and the Sufi Networks of Northwest China 発表者: Theaker, Hannah (University of Plymouth)
- 7月11日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
- Domination, Migration or Emulation: Understanding the Kushan Influence on the Tarim Basin in the First Centuries AD 発表者: Tomas Larsen (Høisæter Western Norway University of Applied Science)
- 7月19日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
語史は誤字の中: 西夏語仏典における正誤と規範 発表者: 呉国 聖 (国立精華大学)
- 10月10日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者: 中西竜也
- 11月14日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者: 中西竜也
- 11月28日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者: 中西竜也
- 12月12日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読 発表者: 中西竜也
- 2026年
- 1月23日 アジアにおける宗教諸文化の越的波及と「地域」創出
Muslim Saints in a Buddhist Landscape: Khwaja Tabut and the Miraculously Preserved Bodies of Bamiyan, Afghanistan 発表者: Homayun, Shamim (東洋文化研究所)
- 交流と相克のユーラシア東方史 班長 古松崇志
研究期間 2023年4月-2028年3月 (2026年3月終了から2年延長) (3年目)

研究実施状況

研究テーマの「交流と相克のユーラシア東方史」について具体的に考察するための題材として、南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。12回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない、『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・訳注作業を進め、巻二十七から巻二十九までを読み進めた。以上の研究会について、オンライン会議・対面のハイブリッドおよびオンライン会議の形式で開催した。

研究班員

所内：古松崇志、矢木毅、村上衛、高井たかね

学内：彭皓（文学研究科）

学外：木村可奈子（東北大学大学院国際文化研究科）、蔡長廷（名古屋大学大学院文学研究科）、船田善之（広島大学人間社会科学研究科）、古畑徹（金沢大学人間社会研究域国際学系）、岩本真利絵（京都府立大学文学部）、渡辺健哉（大阪公立大学文学研究科）、王世禎（大阪公立大学人文学学際研究センター）、飯山知保（早稲田大学文学学術院）、井黒忍（大谷大学文学部）、伊藤一馬（日本大学法学部）、岩井茂樹（京都橘大学文学部）、小野達哉（同志社大学文学部）、加藤雄三（専修大学法学部）、小林隆道（神戸女学院大学文学部）、齊藤茂雄（帝京大学文学部）、承志（追手門学院大学文学部）、城地孝（同志社大学文学部）、武田和哉（大谷大学社会学部）、藤本猛（京都女子大学文学部）、藤原崇人（龍谷大学文学部）、水越知（関西学院大学文学部）、毛利英介（昭和女子大学人間文化学部）、遠藤総史（中央研究院歴史語言研究所）

研究実施内容

2025 年

5 月 20 日 『三朝北盟会編』 卷二十七会読

発表者：矢木 毅

6 月 3 日 『三朝北盟会編』 卷二十七会読

発表者：武田和哉（大谷大学）

6 月 17 日 『三朝北盟会編』 卷二十七会読

発表者：小野達哉（同志社大学）

7 月 1 日 『三朝北盟会編』 卷二十八会読

発表者：飯山知保（早稲田大学）

7 月 15 日 『三朝北盟会編』 卷二十八会読

発表者：古松崇志

10 月 14 日 『三朝北盟会編』 卷二十八会読

発表者：岩本真利絵（京都府立大学）

11 月 18 日 『三朝北盟会編』 卷二十八会読

発表者：王 世禎（大阪公立大学）

12 月 2 日 『三朝北盟会編』 卷二十九会読

発表者：藤本 猛（京都女子大学）

12 月 16 日 『三朝北盟会編』 卷二十九会読

発表者：伊藤一馬（日本大学）

2026 年

1 月 13 日 『三朝北盟会編』 卷二十九会読

発表者：井黒 忍（大谷大学）

1 月 27 日 『三朝北盟会編』 卷二十九会読

発表者：古松崇志

2 月 10 日 『三朝北盟会編』 卷二十九会読

発表者：彭 皓
（文学研究科）

古典中国語コーパスの応用研究 班長 安岡孝一

研究期間 2023 年 4 月-2026 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

『日本霊異記』『御成敗式目』『狄島夜話記』『日本樂府』の Universal Dependencies を連続して製作しつつ、それらの日本漢文 Universal Dependencies が古典中国語 Universal Dependencies とどのように似かよっていて、どのように異なっているかをかなりの部分まで明らかにした。また、これらのデータをもとに ModernBERT を用いて日本漢文を解析する手法を開発したが、日本漢文は基本的にコードスイッチングを伴う書写言語であり、これらを一体的に解析処理するには技術的なブレークスルーがまだ必要となる、というところで本研究班は終了となった。

研究班員

所内：安岡孝一、池田巧、Christian Wittern、李媛、劉冠偉

学外：鈴木慎吾（大阪大学言語文化研究科）、山

崎直樹（関西大学外国語学部）、二階堂善弘（関西大学文学部）、師茂樹（早稲田大学文学学術院文学部）、守岡知彦（国文学研究資料館研究部）

研究実施内容

2025 年

- 4 月18日 『御成敗式目』 Universal Dependencies
- 5 月2日 『日本靈異記』 Universal Dependencies
- 5 月16日 Universal Dependencies 2.16
- 6 月6日 『日本靈異記』の敬語表現
- 6 月20日 『日本靈異記』の「之」
- 7 月4日 JHPCN 第17回シンポジウム発表準備
- 7 月18日 『日本靈異記』 Universal Dependencies
- 7 月25日 東洋学へのコンピュータ利用第40回研究セミナー
- 9 月5日 『日本樂府』 Universal Dependencies
- 10月3日 『日本樂府』 Universal Dependencies
- 10月17日 『日本樂府』 Universal Dependencies
- 11月7日 『日本樂府』 Universal Dependencies
- 11月21日 『日本樂府』における接頭辞
- 12月5日 『狄島夜話記』におけるアイヌ語について
- 12月19日 Universal Dependencies 2.17

2026 年

- 1 月16日 日本漢文 OCR の開発に向けて
- 1 月30日 東洋学へのコンピュータ利用第41回研究セミナー

隋唐石刻資料の研究

班長 倉本尚徳

研究期間 2023 年 4 月-2027 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

本年度は研究会を合計 18 回開催した。うち 15 回は隋代の重要な石刻拓本資料を研究対象にとりあげ、会読を行い訳注を作成をした。とりあげたのは、儒教の石刻資料である陳叔毅修孔子廟碑、墓誌蓋に免の浮彫のある楊公墓誌、隋による陳王朝征伐の戦勝記念としての仏教石刻、隋都督諸葛子恆等合邑百人造像記、の三点である。また、会読以外に永田知之、陳錦清、会田大輔の三氏による研究報告会を開催し

た。会田氏の報告は前年度の大知聖子氏による墓誌のジェンダー語彙研究報告と同じく、ジェンダーの観点を歴史学に導入することで旧来の中国史学の認識を改める新たな試みであった。7 月には人文研アカデミーのイベントとして一般向けにワークショップ「拓本のうそほんと」を企画開催し、新たに整理した本研究所所蔵唐代拓本集「唐叢碑」の一般公開を行った。本研究班からは倉本尚徳と小野木聡が講師としてこれに参加し、唐代の三教聖教序碑、賈玄賛殯記石刻に関する研究成果をそれぞれ発表した。両者とも碑文テキストすら固定したものではなく、改ざん・変遷があることを示した研究である。

研究班員

所内：倉本尚徳、稲本泰生、古勝隆一、永田知之、野原将揮、藤井律之、船山徹、古松崇志、宮宅潔、向井佑介、佐藤智水、打本和音、高井龍

学内：池田恭哉（文学研究科）、成田健太郎（文学研究科）、于恒超（人間・環境学研究科）、大谷由香（白眉センター）、仲村康太郎（文学研究科）

学外：陳錦清（三重大学人文学部）、河上麻由子（大阪大学大学院人文学研究科）、佐野誠子（名古屋大学大学院人文学研究科）、李乃琦（名古屋大学大学院人文学研究科）、田熊敬之（岩手大学人文社会科学部）、杜智勇（大阪大学大学院人文学研究科）、王孫涵之（長野県立大学グローバルマネジメント学部）、池平紀子（大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科）、平田陽一郎（国立沼津工業高等専門学校教養科）、岡田和一郎（京都府立大学）、石川琢道（大正大学仏教学部）、大知聖子（名城大学理工学部）、大西磨希子（佛教大学仏教学部）、福島恵（日本大学文理学部史学科）、戸次顕彰（大谷大学文学部）、村田みお（近畿大学国際学部国際学科）、魏藝（龍谷大学）、酒井ゆき（大谷大学）、都河陽介（龍谷大学）、野中敬（早稲田大学）、小野木聡（国際日本文化研究センター）、石松日奈子（東京国立博物館

学芸研究部), 北村一仁 (河南農業大学外国語学院日語系), 梶山智史 (南開大学歴史学院), 陳志遠 (中国社会科学院歴史研究所), 王煒 (山西大学歴史文化学院考古系), 李瀾 (University of Toronto), 梁爽 (鄭州大学中原歴史与文化研究院), 邱琬淳 (中央研究院文哲研究所), 黃子晏 (國立臺灣大學歷史學系)		(人間・環境学研究科)			
研究実施内容	11月28日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)		
	12月12日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)		
	12月26日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)		
2025 年	2026 年				
4 月11日	譯注の書式・「唐叢碑」について	発表者: 倉本尚徳	1 月 9 日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)
4 月25日	隋唐石刻資料の会読 105X 陳叔毅修孔子廟碑	発表者: 池田恭哉 (文学研究科)	1 月23日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)
5 月 9 日	隋唐石刻資料の会読 105X 陳叔毅修孔子廟碑	発表者: 池田恭哉 (文学研究科)	2 月13日	隋唐石刻資料の会読 44AB 諸葛子恆等合邑百人造像記	発表者: 高井 龍 (非常勤研究員)
6 月13日	隋唐石刻資料の会読 105X 陳叔毅修孔子廟碑	発表者: 池田恭哉 (文学研究科)	3 月27日	北魏孝明帝期における胡太后と碑誌	発表者: 会田大輔 (明治大学・アジア史科学研究所客員研究員)
6 月27日	碑文譯注の作成をめぐって―「調べ物」雑感 (オンライン)	発表者: 永田知之	『玉燭宝典』研究 班長 古勝隆一		
7 月11日	隋唐石刻資料の会読 105X 陳叔毅修孔子廟碑	発表者: 池田恭哉 (文学研究科)	研究期間 2023 年 4 月-2027 年 3 月 (3 年目)		
7 月25日	隋唐石刻資料の会読 105X 陳叔毅修孔子廟碑	発表者: 池田恭哉	研究実施状況		
9 月26日	新出庾信撰「陸逞墓誌銘」についての一考察―「呉郡呉人」の一人としての生涯について	発表者: 陳錦清 (三重大学)	『玉燭宝典』古写本 (室町時代初期) の整理につき, 文字学・写本学・電子化の観点など, 諸分野の知見を集め, さまざまな角度から検討した。		
10月10日	隋唐石刻資料の会読 10X 楊居墓誌	発表者: 于恒超 (人間・環境学研究科)	前年度までに整理した巻一について, その成果を電子的にどのようなかたちで表現するのがよいか, 議論を加え, 国際的なマークアップの規準である TEI の形式で記述するための議論をおこなった。		
10月24日	隋唐石刻資料の会読 10X 楊居墓誌	発表者: 于恒超 (人間・環境学研究科)	古写本が書写された時代の用字習慣を踏まえ, さらにはそれ以前の中国中世の書写習慣の解明を目指しつつ, その人文情報学的な表現を実現するという問題意識のもとになされたものである。		
11月14日	隋唐石刻資料の会読 10X 楊居墓誌	発表者: 于恒超	本年度は, 巻二の整理 (翻刻・校訂本文の作成, および注釈の執筆) を終えることができた。また,		

研究班の知見を踏まえ、班長の古勝は、複数回の研究発表をおこなった（9月、香港。9月、北京・長沙。11月、台中）。

研究班員

所内：古勝隆一、永田知之、倉本尚徳、藤井律之、楊維公、李媛

学内：魏星（大学院人間・環境学研究科）、徐新源（大学院人間・環境学研究科）、成田健太郎（大学院文学研究科）、仲村康太郎（大学院文学研究科）、田尻健太（大学院文学研究科）、王歆（大学院文学研究科）

学外：内山直樹（千葉大学大学院人文科学研究科）、齋藤智寛（東北大学大学院文学研究科）、竹元規人（福岡教育大学教育学部）、新田元規（徳島大学総合科学部）、白石将人（三重大学人文学部）、陳錦清（三重大学人文学部）、富嘉吟（お茶の水女子大学基幹研究院）、平澤歩（東京大学大学院人文社会系研究科）、海藤水樹（東京大学大学院人文社会系研究科）、路勝楠（北海道大学大学院文学研究科）、陳佑真（都留文科大学文学部）、王孫涵之（長野県立大学グローバルマネジメント学部）、重田みち（京都芸術大学大学院芸術教育科（通信課程））、渡邊大（文教大学文学部）、山口智弘（駒澤大学文学部）、李弘喆（長春師範大学高句麗渤海研究院）、白須裕之

研究実施内容

2025年

4月15日 『玉燭宝典』 卷二会読①

発表者：古勝隆一

5月20日 『玉燭宝典』 卷二会読②

発表者：竹元規人
（福岡教育大学教育学部）

6月17日 『玉燭宝典』 卷二会読③

発表者：平澤歩
（東京大学大学院人文社会系研究科）

7月15日 『玉燭宝典』 卷二会読④

発表者：陳佑真
（都留文科大学文学部）

10月21日 『玉燭宝典』 卷二会読⑤

発表者：王孫涵之
（長野県立大学グローバル
マネジメント学部）

11月18日 『玉燭宝典』 卷二会読⑥

発表者：永田知之

12月16日 『玉燭宝典』 卷二会読⑦

発表者：藤井律之

2026年

1月20日 『玉燭宝典』 卷二会読⑧

発表者：倉本尚徳

2月17日 『玉燭宝典』 卷二会読⑨

発表者：楊維公

「異端」の人文学 班長 石井美保・向井佑介

研究期間 2024年4月-2027年3月（2年目）

研究実施状況

本年度は、2回の研究会を実施した。第1回の瀬戸口報告は、20世紀後半におけるさまざまな社会問題に直面した「異端」の科学者たちが、その後の人生をいかに生きたかを考察したものである。(1) 活動家になる、(2) 科学史家になる、(3) 科学者として活動を続ける、という3つの具体的事例をあげながら、近代科学史における異端のあり方について議論を交わした。第2回の永田報告は、中国近世とそれ以前における「異端」という言葉の使用とその解釈について考察したものである。「異端」という語の初出である『論語』為政篇の解釈を手がかりとしながら、宋代の朱子学とその周辺の学者たちの言説を読み解き、当時の知識人たちが「異端」をどのように位置づけ、どのように「異端」に向き合ったのかを論じた。実施回数は少ないながらも、「異端」についての本質的な問いをもとに、濃密な議論を実現することができた。

研究班員

所内：石井美保、向井佑介、浅井佑太、井口千雪、エリクソン、シエル・デイビッド、倉本尚徳、呉孟晋、小堀聡、酒井朋子、菅原百合絵、須永哲思、瀬戸口明久、永田知之、中西竜也、野原将揮、平岡隆二、福家崇洋、藤原辰史

研究実施内容

2025 年

10月9日 異端を生きる — 1970 年代の科学技術
批判とその隘路 発表者：瀬戸口明久

2026 年

1月22日 「おさめる」のか、「せめる」のか—
近世以前の中国文学と「異端」をめぐ
る言説 発表者：永田知之

東アジア伝統科学における自然と人間

班長 平岡隆二

研究期間 2024 年 4 月-2027 年 3 月 (2 年目)

研究実施状況

二〇二五年度は、合計一回の研究会を実施し、班員による研究報告として計一四名の報告を得た。各自の専門分野に基づく報告ののち、参加者との討議を重ねるとともに、班内における研究の共有と横断的理解の促進を図った。あわせて、班員を編者とする『幕府天文方の研究』(思文閣出版)を刊行し、共同研究の成果を内外に発信した。原典会読では、『仏国暦象編』の訳注出版に向けた準備を進め、全五巻の原稿を順次入稿し、巻一・二については校正をほぼ完了し、現在巻三以下の校正を進めている。同訳注については、来年度前半中の刊行を目指す。また、底本に用いた人文研所蔵の『仏国暦象編』版本のデジタル化を完了し、東方学デジタル図書館および京都大学貴重資料デジタルアーカイブにおいて公開した。これにより、当該版本の高精細画像への広範なアクセスが可能となり、今後の本文・テキスト・図版の比較研究の基盤を整備した。

研究班員

所内：平岡隆二、瀬戸口明久、高井たかね、藤原
辰史、宮紀子

学内：劉嘉遠 (大学院文学研究科)

学外：西嶋佑太郎 (日本学術振興会)、徳武太郎
(Université Paris Cité)、諫早庸一 (北海
道大学)、小田島梨乃 (東京大学大学院)、
佐藤賢一 (電気通信大学)、多田伊織 (大
阪大学)、塚原東吾 (神戸大学)、三村太
郎 (東京大学)、李麗 (名古屋大学)、劉
青 (弘前大学)、池内早紀子 (大阪府立大

学大学院)、梅林誠爾 (熊本県立大学)、
大島明秀 (熊本県立大学)、名和敏光 (山
梨県立大学)、愛新覺羅闡和 (KAI HE)
(立命館大学)、上田真啓 (立命館大学)、
梅田千尋 (京都女子大学)、岡田正彦 (天
理大学)、株本訓久 (武庫川女子大学)、
河瀬真弥 (京都先端科学大学)、小林博行
(中部大学)、島山奈緒子 (関西医療大学)、
成高雅 (立命館大学)、高橋あやの (大東
文化大学)、武正泰史 (東京大学)、橋本
敬造 (関西大学)、林淳 (愛知学院大学)、
檜山智美 (東洋大学)、細井浩志 (活水女
子大学)、宮川卓也 (広島修道大学)、矢
野道雄 (京都産業大学)、山下克明 (大東
文化大学)、山田俊弘 (大正大学)、吉村
美香 (愛知淑徳大学)、太田由佳 (日本学
術振興会)、梶島雅弘 (和歌山高専)、永
塚憲治 (公益財団法人研医会)、増田友哉
(日本学術振興会)、清水浩子 (公益財団
法人斯文会)、HSIUNG, Hansun (Durham
University)、全勇勲 (韓国学中央研究院)、
HAYEK, Matthias (フランス国立高等研
究実習院)、MAK, Bill (ニーダム研究所)、
李錚 (中国科学技術大学)、VALERA
PATERNA, Salvador (Institute of History,
Spanish National Research Council)、郭文
華 (国立陽明交通大学)、姜姍 (北京協和
医学院)、任正嫻 (朝鮮大学校)、嘉数次
人 (大阪市立科学館)、黒須潔 (仙台郷土
研究会)、陶山徹 (長野市立博物館)、宮
島一彦 (元同志社大学)、八耳俊文 (元青
山学院女子短期大学)

研究実施内容

2025 年

6月9日 研究報告 虎溪山漢簡の方術：占術と
医術

発表者：名和敏光 (山梨県立大学)

7月14日 研究報告『千金翼方』にみられる鬼の
病因論

発表者：島山奈緒子 (関西医療大学)
若杉家文書から読む宝暦・明和の天文

- 方：土御門泰邦と山路主住の往復書簡
発表者：黒須 潔（仙台市天文台）
- 9月4日 研究報告「南蛮神草」から「妖怪仙薬」へ：伊吹艾の流通と民間伝承 2026年
発表者：姜 姍（北京協和医学院）
朝鮮の実学者洪大容『蟹山問答』における無限宇宙論と自然学
発表者：任正嫻（朝鮮大学校）
- 10月6日 研究報告「養和二年記」にみる1182年の星空：古代日本天文記録の再検討
発表者：李 錚（中国科学技術大学）
Time, temporality and science in João Rodrigues Tsūzu's História da Igreja do Japão (1620-1633)
発表者：VALERA PATERNA
Salvador Institute of History, Spanish National Research Council
- 11月21日 合評会「グローバルヒストリー・科学思想・蘭学」『Science Wars Before the “Science Wars”’: East Asia as Method』特集を読む
趣旨説明 発表者：岡澤康浩
Science Wars Before the “Science Wars”’: East Asia as Method
コメント コメントーター：岡本拓司（東京大学）
蘭学史から読み直す西周「知説」：翻訳・主体性・知の空間の再構築
コメントーター：橋本真悟（北里大学）
- 12月8日 研究報告 麻田派天文暦学者による数学研究
発表者：武正泰史（日本大学）
サンスクリット算術書『三百〔詩節〕』（Trisāti）を読んでいた人々：奥書から見えてくる写本伝承の詳細
発表者：徳武太郎（Université Paris Cité）
- 12月15日 原典会読『仏国暦象編』訳注検討：恵岳跋
- 発表者：小林博行（中部大学）
今後の編集・校正作業について
発表者：平岡隆二
- 1月31日 研究報告 新城新蔵の迷信打破活動
発表者：株本訓久（武庫川女子大学）
酸粥考：Vinaya から考えるアジアの炊飯 発表者：多田伊織（大阪大学）
- 2月9日 研究報告 清帝国満洲社会の自然観について 発表者：愛新覚羅 KAIHE（立命館大学）
調査報告：堺市正覚寺須弥象碑と須弥山儀について
発表者：吉田 薫（独立研究者）
- 3月3日 The Making of Christian Law in Late Medieval and Early Modern Japan
From his perch on a donkey, he conducts war’: Francisco Rodrigues SJ (c. 1515-1573) and the production of normative knowledge in Portuguese Asia 発表者：EHALT, Rômulo
Ehalt Max Planck Institute for Legal History and Legal Theory The struggle of Rodrigues and the Jesuit missionaries to introduce Christian marriage in XVIth century Japan: Main customary and cultural challenges
発表者：EGIO, José
Luis Universidade Complutense de Madrid
- 3月19日 研究報告 Clockwork Astronomical Models in Early Modern Japan
発表者：平岡隆二
- 『広弘明集』に見る中国中世在家仏教
班長 船山 徹
研究期間 2024年4月-2027年3月（2年目）
研究実施状況
二年目の今年は、隔週金曜午後各3時間、以下の通り、合計15回の会読研究班を予定し、文献解読基礎研究の基盤を構築した。昭明太子「令旨解二

諦義〈并問答〉(1)」(担当者船山徹),「同(2)」(担当者中西俊英),「同(3)」(担当者蘭原),「同(4)」(担当者倉本尚徳),「謝靈運「辯宗論」(1)」(担当者魏藝),「同(2)」(担当者船山徹),「同(3)」(担当者大谷由香),「同(4)」(担当者魏藝),「同(5)」(担当者魏藝),「王邵「舍利感應記」(1)」(担当者倉本尚徳),「同(2)」(担当者都河陽介),「同(3)」(担当者船山徹),「同(4)」(担当者稲本泰生),「同(5)」(担当者河上麻由子),「以上14回の未消化部分の再検討と補足」(担当者船山徹)。しかし最終回は船山の都合によりやむを得ず休会し、一年14回の開催となった。

研究班員

所内：船山徹、稲本泰生、ウィッテルン、クリスティアン、古勝隆一、倉本尚徳、中西竜也、石垣章子、山本茂、蘭原

学内：大谷由佳(白眉センター)、慶昭蓉(白眉センター)

学外：河上麻由子(大阪大学大学院人文学研究科)、李乃琦(名古屋大学文学研究科)、魏藝(龍谷大学文学部)、中西俊英(京都女子大学文学部)、村田みお(近畿大学国際学部)、久永昂央(東大寺ミュージアム)、趙ウニル(梨花女子大学校)、都河陽介(龍谷大学)

研究実施内容

2025年

4月18日 原典資料の精読を通じて前近代中国在家者の仏教観を知る 昭明太子「令旨解二諦義〈并問答〉」(1)

発表者：船山 徹

5月16日 同上 昭明太子「令旨解二諦義〈并問答〉」(2)

発表者：中西俊英(京都女子大学)

5月30日 同上 昭明太子「令旨解二諦義〈并問答〉」(3)

発表者：蘭 原

6月6日 同上 昭明太子「令旨解二諦義〈并問答〉」(4)

発表者：倉本尚徳

6月20日 同上 謝靈運「辯宗論」(1)

発表者：魏 藝(龍谷大学)

7月4日 同上 謝靈運「辯宗論」(2)

発表者：船山徹

7月18日 同上 謝靈運「辯宗論」(3)

発表者：大谷由香(白眉センター)

10月17日 同上 謝靈運「辯宗論」(4)

発表者：魏 藝(龍谷大学)

10月31日 同上 謝靈運「辯宗論」(5)

発表者：魏 藝(龍谷大学)

11月21日 同上 王邵「舍利感應記」(1)

発表者：倉本尚徳

12月5日 同上 王邵「舍利感應記」(2)

発表者：都河陽介(龍谷大学)

12月19日 同上 王邵「舍利感應記」(3)

発表者：船山 徹

2026年

1月16日 同上 王邵「舍利感應記」(4)

発表者：稲本泰生

2月20日 同上 王邵「舍利感應記」(5)

発表者：河上麻由子(大阪大学)

情報と近現代中国

班長 石川禎浩

研究期間 2024年4月-2028年3月(2年目)

研究実施状況

主要かつ最重要な活動である研究班「情報と近現代中国」の例会を、4月から3月にかけて、合計15回開催した。主なものは次の通り(報告者・題目)：4月18日 森川裕貫「中華民国時期の信託・信託業論」、5月9日 王佳超「梁啓超における西洋経済学の解釈」、5月23日 温秋穎「日中国交正常化前の民間交流と情報—学生訪中団「齊了会」を中心に」、6月6日 羅亜妮「清末民国期における堯舜形象の変遷」、6月20日 殷晴「清末新政期における日刊新聞の運営・報道・言論—『大公報』を事例として」、10月10日 中村元哉「人民共和国の情報統制の出発点—1950年代の出版政策」。これら報告はいずれも歴史学のディシプリンに立つものではあったが、情報という素材を扱う際の注意点に意を用い、史学と情報学の協業による新たなパラダイムの創出にかんし、多くの知見が得られた。また9月27日には、近年刊行された中国共産党史関連の研究書5冊を対象とする大型の合評会「中国共産党大解剖」を実施、政治学と歴史学にまたがる学術交

流の実を上げた。

研究班員

所内：石川禎浩，福家崇洋，村上衛，温秋穎，呉孟晋，張藍天，李莞婷，張秀春

学内：箱田恵子（文学研究科），太田出（人間・環境学研究科），小野寺史郎（人間・環境学研究科），羅亜妮（文学研究科），津守陽（人間・環境学研究科），金子豊（文学研究科），中島大知（文学研究科），李多南（人間・環境学研究科），手代木さづき（文学研究科），関藝蕾（文学研究科），楊睦（人間・環境学研究科）

学外：秋田朝美（大阪大学人文学研究科），岡野（葉）翔太（神戸大学文学研究科），韓燕麗（東京大学総合文化研究科），森岡優紀（国際日本文化研究所），谷川真一（神戸大学国際文化学研究科），中村元哉（東京大学教養学部），丸田孝志（広島大学総合科学研究科），漆麟（鳥取大学），周俊（神戸大学国際文化学研究科），比護遙（金沢大学），林礼釗（明石高専教養学群），アルス（大阪大学人文学研究科），水羽信男（広島大学），鄭成（兵庫県立大・環境人間学研究科），菊池一隆（愛知学院大学文学部），島田美和（慶應大学法学部），瀬戸宏（摂南大学外国語学部），Barrett, Thomas（慶應大学法学部），瞿艷丹（近畿大学），徐璐（近畿大学），高嶋航（早稲田大学スポーツ科学学術院），郭夢壺（神奈川大学外国語学研究科），王佳超（関西大学文学部），土肥歩（青山学院大学校史資料室），貴志俊彦（岡山ノートルダム清心女子大学），三田剛史（明治大学商学部），宮内肇（立命館大学文学部），森川裕貫（関西学院大学文学部），山崎岳（奈良大学文学部），楊韜（佛教大学文学部），和田英男（近畿大学），殷晴（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），小堀慎悟（名古屋外国語大学），郭まいか（岡山ノートルダム清心女子大学），団陽子（日本学術振興会），谷雪妮（北京師範

大学），鄒燦（中国南開大歴史学院），都留俊太郎（台湾中央研究院台湾史研究所），丁麗瓊（天津大学歴史系），Lam, On I（ケンブリッジ大学アジア学部），姜珍亞（漢陽大学校），範麗雅

研究実施内容

2025 年

- 4 月18日 中華民国時期の信託・信託業論
 発表者：森川裕貫（関西学院大学）
 コメンテーター：張秀春（上海立信會計金融学院）
- 5 月9日 梁啓超における西洋経済学の解釈
 発表者：王佳超（関西大学大学院）
 コメンテーター：森川裕貫（関西学院大学）
- 5 月23日 日中国交正常化前の民間交流と情報— 学生訪中団「斉了会」を中心に
 発表者：温秋穎
 コメンテーター：瀬戸 宏（摂南大学名誉教授）
- 6 月6日 清末民国期における堯舜形象の変遷
 発表者：羅亜妮（京都大学大学院）
 コメンテーター：松尾洋二（立命館大学）
- 6 月20日 清末新政期における日刊新聞の運営・報道・言論—『大公報』を事例として
 発表者：殷 晴（同志社大学）
 コメンテーター：河崎吉紀（同志社大学）
- 7 月4日 南京国民政府の憲法制定過程における国家元首の権力の変遷：知識人の意見と議論をめぐって
 発表者：陳偉鵬（人間・環境学研究科）
 コメンテーター：都留俊太郎（中央研究院，台湾史研究所）
 現代中国の嚴復像について：なぜ思想家として嚴復を研究するのか
 発表者：李博宇（人間・環境学研究科）
 コメンテーター：箱田恵子（大学院文学研究科）

- 10月10日 人民共和国の情報統制の出発点 — 1950年代の出版政策
発表者：中村元哉（東京大学）
コメンテーター：森川裕貫（関西学院大学）
コメンテーター：濱田麻矢（神戸大学）
- 10月24日 近代中国知識人の政治生活の中の非政治的な側面 — 馮自由の〈公夫公妻〉批判を手かりに
発表者：蔡 佑佳（人間・環境学研究科）
コメンテーター：須藤瑞代（京都産業大学）
- 11月7日 外交官・須磨弥吉郎における情報と中国絵画コレクション
発表者：呉孟晋
コメンテーター：劉建輝（国際日本文化研究センター）
- 11月21日 『漢城旬報』（1883-84）に関する試論：近代初期の東アジアにおける新聞ネットワークと朝鮮
発表者：塩出浩之（文学研究科）
コメンテーター：殷 晴（同志社大学）
- 12月5日 久原房之助・穂積七郎と1950年代後半の第三次国共合作計画
発表者：横山雄大（同志社大学）
コメンテーター：福家崇洋
- 2026年
- 1月16日 1976年文学座『夢 — 桃中軒牛右衛門の』公演への中国大使館干渉事件
発表者：瀬戸 宏（摂南大学名誉教授）
コメンテーター：温秋穎
- 1月30日 千田是也と中国：戦後日中演劇交渉史の試論
発表者：楊 韜（佛教大学）
コメンテーター：瀬戸 宏（摂南大学名誉教授）
- 2月13日 女学生越劇観客の『ひいきの文化』— 越劇ファンクラブに着目して
発表者：手代木さづき（京都大学大学院）
- 2月27日 五四時期国語運動における文字問題と音声学の普及 — 錢玄同を中心に
発表者：中島大知（京都大学大学院）
コメンテーター：竹元規人（福岡教育大学）
- チベットにおけるコミュニケーションツールの研究 — 書簡文化の歴史の変遷と現代的意義 —
班長 池田 巧
研究期間 2025年4月-2027年3月（1年目）
研究実施状況
「チベットにおけるコミュニケーションツールの研究 — 書簡文化の歴史の変遷と現代的意義 —」のテーマのもとで班員各位が研究を進めてきた多様な文書の書式と内容について、書かれた文書の地域的、時代的な諸特徴についての理解をさらに深めるべく関連する研究報告会と情報交換会を月に1回のペースで開催した。定例の研究集会は対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、チベット学の諸分野における班員各位の先端的な研究成果を報告したほか、ゲストスピーカーを招いて最新の研究報告を聞く機会を設けた。これまでの研究成果をとりまとめた研究論集の出版に向けて、執筆者はそれぞれ原稿の執筆をすすめ、編集部では提出された順に原稿の査読と編集を行ない、完成原稿から組版を進めた。青本文教が請求したチベット語書簡の書き方についての写本は、判読できたところからチベット文字の入力を進めており、デジタルテキストの編集と整理を継続中である。
- 研究班員
所内：池田巧、稲葉穰、中西竜也
学内：西田愛（白眉センター・人文研）、海老原志穂（白眉センター・文学部）、井内真帆（白眉センター・文学部）、小西賢吾（人と社会の未来研究院）
学外：星泉（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所）、根本裕史（広島大学大学院文学研究科）、山本達也（静岡大学人文社会科学部）、小林亮介（九州大学比較社会

文化研究院), 岩田啓介 (筑波大学人文社会科学系), 長岡慶 (東京大学・日本学術振興会), 岩尾一史 (龍谷大学文学部), 大川謙作 (日本大学文理学部), 別所裕介 (駒沢大学総合教育研究部), 山本明志 (大阪国際大学経営経済学部), 小野田俊蔵 (佛教大学), 三宅伸一郎 (大谷大学), 小松原ゆり (明治大学文学部), 村上大輔 (駿河台大学現代文化学部), 加納和雄 (駒澤大学仏教学部), 池尻陽子 (関西大学文学部), 旗手瞳 (龍谷大学・日本学術振興会), ガザンジェ (東洋文庫・日本学術振興会), 王包包 (タルトゥ大学 (エストニア)), Agnes Conrad (シドニー大学 (オーストラリア))

研究実施内容
2025 年

4 月19日 「桦物語と書簡体小説の系譜から読み解くチベット現代文学」
発表者: 星 泉
(東京外国語大学
アジアアフリカ言語文化研究所)
チベット研究ヨーロッパ行脚 2024
発表者: 井内真帆 (白眉センター)

5 月17日 チベット現代文学における書簡体小説
発表者: 海老原志穂 (白眉センター)

6 月21日 化身転生をめぐるコミュニケーション・ツールの展開
発表者: 別所裕介 (駒澤大学)

7 月19日 語史は誤字の中 ― 西夏語仏典における正誤と規範
発表者: 呉國聖 (台湾清華大学)

10月25日 日本チベット学会 (種智院大学)
化身ネットワークとディアスポラのチベット仏教圏
発表者: 別所裕介 (駒澤大学)

2026 年

1 月24日 Transferring Misfortune in the Eastern Minyang Community
発表者: 王包包
(タルトゥ大学大学院 (エストニア))

地球科学構想と近代社会 班長 伊藤順二
研究期間 2025 年 4 月-2028 年 3 月 (1 年目)
研究実施状況
諸事情により研究会の立ち上げが遅れたが, 最初の 2 回で会の方向性について熟議を重ねた結果, 対象とする時代・地域を「19 世紀ロシア社会」に限定することなく, ヴェルナツキイとその周辺の諸問題を共同研究の対象とすることとなった。ロシア国内天然資源の調査活動に必要な予算獲得のため, ヴェルナツキイは政府および世論に向けて啓蒙的な記事や報告を多数執筆公表している。ロシアにおける彼への高い一般的評価を考えるうえで, ジョージ・ガモフ (放射性物質) やフェルスマン (鉱物学) などの一般的啓蒙書の書き手との人的つながりや相互の思想史的影響を考慮することが必要である。同時に, ロシア宇宙主義の全般的状況はもちろん, 特に初期の彼の思想に大きな影響を与えたフランス思想 (ベルクソンなど) の検討も必要であることが明らかとなった。

研究班員
所内: 伊藤順二, 瀬戸口明久
学内: 中村唯史 (文学研究科), 福元健之 (人間・環境学研究科)

研究実施内容
2025 年

12月20日 共同研究の設立に向けて
発表者: 伊藤順二

2026 年

1 月14日 ヴェルナツキイ・石油産業・ロシア宇宙主義
発表者: 伊藤順二

2 月24日 革命前ヴェルナツキイの天然資源調査と総合科学の試み
発表者: 伊藤順二

3 月11日 ロシア/ソ連文学・思想におけるコスミズムの周辺
発表者: 中村唯史 (文学研究科)

日本近世における幕領社会の研究 班長 岩城卓二
研究期間 2025 年 4 月-2028 年 3 月 (1 年目)
研究実施状況
25 年度は, 研究報告会を 7 回 (報告者 9 名), 「正令」を読む会を 4 回開催した。研究報告会では, 石

見銀山附幕領を対象に、御貸附金銀・「通用銭」、自然環境と気候変動からみた年貢徴収の変容と代官所・地域社会の対応、廻米制度について、北信濃幕領における取締役制について、備中足守藩における「郡中請」札について、代官手代が著した著作からみた職分意識と教養についての報告がなされた。各報告者が、藩領とは異なる幕領社会の特質を考えることを意識して、金融・年貢徴収・廻米・手代・支配制度についての精緻な実証的報告を行ったことで、幕領社会論構築の基礎固めを行うことができた。また「正令」を読む会では、「正令」の翻刻と他法令集掲載の有無を確認した上で、記載される法令の会読を進め、これまで光が当てられてこなかった幕領支配における江戸役所の意義、幕府から代官への指示系統が明らかになった。

研究班員

所内：岩城卓二，瀬戸口明久，平岡隆二

学外：今村直樹（熊本大学永青文庫研究センター），上田長生（金沢大学人間社会研究域人文学系），川端駆（東北大学大学院文学研究科日本文学専攻），児玉憲治（千葉大学国際高等研究基幹全方位イノベーション創発センター），小林准士（鳥根大学法文学部），添田仁（茨城大学人文社会科学部），高槻泰郎（神戸大学経済経営研究所），武井弘一（金沢大学人間社会研究域学校教育系），東野将伸（岡山大学学術研究院社会文化科学学域），尾崎真理（神戸女子大学文学部史学科），鎌谷かおる（立命館大学食マネジメント学部），河野未央（武庫川女子大学文学部），志村洋（関西学院大学文学部文化歴史学科），萬代悠（法政大学経済学部経済学科），三村昌司（早稲田大学教育・総合科学学術院），山崎圭（中央大学文学部），久留島浩（国立歴史民俗博物館），仲野義文（石見銀山資料館），下向井紀彦（公益財団法人三井文庫），糸川風太（田辺市立美術館），中安恵一（鳥根県教育庁文化財課），平田良行（岡山県立博物館），矢野健太郎（鳥根県古代文化センター）

研究実施内容

2025 年

4 月12日 石見大森代官所「銀山方御貸付銀」における拝借人宿の役割

発表者：岩城卓二

5 月10日 「正令」からみた幕領支配と代官所役人

発表者：尾崎真理（神戸女子大学）

7 月6日 「正令」を読む会 1

発表者：尾崎真理（神戸女子大学）

7 月19日 自然環境から考える幕領社会 ― 年貢割付状を手がかりに ―

発表者：鎌谷かおる（立命館大学）
幕末の気候と笹ヶ谷銅山師堀家 ― 「日記」を事例に ―

発表者：武井弘一（金沢大学）

9 月6日 石見銀山附幕領における銭目の空位化 ― 「通用銭」をめぐる ―

発表者：小林准士（鳥根大学）
石見銀山附幕領における御廻米制度

発表者：中安恵一
（鳥根県教育庁文化財課）

11月10日 正令を読む会 2 発表者：岩城卓二

11月15日 北信濃幕領における取締役の成立とその機能

発表者：山崎 圭（中央大学）

12月20日 足守藩札の「郡中請」について考える

発表者：久留島浩
（国立歴史民俗博物館）

12月29日 正令を読む会 3 発表者：岩城卓二

2026 年

2 月21日 近世後期における代官手代の職分意識と教養 ― 内藤光備『俵ふるひ』を読む ― 発表者：児玉憲治（千葉大学）

3 月1日 正令を読む会 4 発表者：岩城卓二

高等教育機関における労働組合活動の史的研究

班長 小堀 聡

研究期間 2025 年 4 月 - 2028 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

2025 年度の本研究班では、資料整理に意見交換

や経過報告を交えた研究班を計 13 回実施した。資料整理では、職組本部所蔵資料のうち、最も棚の多い部屋（会議室）に所蔵されている資料群の仮目録作成を完了した。現在は、その他の部屋に所蔵されている資料についても、整理を進めている。一連の活動を通じて、1947～48 年の職組設立経過、1968～69 年の「京大紛争」、1960 年代における職員間の格差是正運動や保育所設置運動などについて、貴重な資料が所蔵されていることを把握できた。これらの分析を通じて、高等教育史や労使関係史に新たな知見を加えることが期待される。なお、「市民との協業」の一環として、職組 OB の方々を交えた資料整理を計 8 回、研究班とは別途実施した。資料整理中の懇談を通じて、様々な情報を得ることもできた。また、京都大学 11 月祭における職組のオンライン展示にも協力し、貴重資料の画像と翻刻・解説を出展した。

研究班員

所内：小堀聡、須永哲思、福家崇洋

学内：岩島史（経済学研究科）、奥村旅人（教育学研究科）

学外：栗山敦（京都大学職員組合）、佐藤大介（京都大学職員組合）

研究実施内容

2025 年

4 月15日 研究班の運営方針について

発表者：小堀 聡

4 月17日 資料整理と意見交換

発表者：小堀 聡、須永哲思、
佐藤大介（京都大学職員組合）

5 月16日 資料整理と意見交換

発表者：福家崇洋、岩島 史
（経済学研究科）
佐藤大介（京都大学職員組合）

6 月10日 資料整理と意見交換

発表者：小堀 聡、福家崇洋、
岩島 史（経済学研究科）
奥村旅人（教育学研究科）
佐藤大介（京都大学職員組合）

7 月16日 資料整理と意見交換

発表者：小堀 聡、須永哲思、

岩島 史（経済学研究科）

奥村旅人（教育学研究科）

佐藤大介（京都大学職員組合）

8 月22日 資料整理と意見交換

発表者：小堀 聡、福家崇洋、
岩島 史（経済学研究科）
佐藤大介（京都大学職員組合）

9 月22日 京大職組年表について

発表者：小堀 聡

10月14日 資料整理と意見交換

発表者：小堀 聡、須永哲思、
岩島 史（経済学研究科）
奥村旅人（教育学研究科）
佐藤大介（京都大学職員組合）

11月11日 「棚 M 左」資料について

発表者：奥村旅人（教育学研究科）

12月23日 京大職組資料整理・進捗報告

発表者：須永哲思

2026 年

1 月20日 組合資料報告 発表者：福家崇洋

2 月12日 資料整理と意見交換

発表者：福家崇洋、小堀 聡、
佐藤大介（京都大学職員組合）

3 月12日 京大職組資料整理・進捗報告

発表者：岩島 史（経済学研究科）

トラウマ概念の系譜再考 ― 学際的探求によるトラウマ研究のアップデート

班長 立木康介・直野章子

研究期間 2025 年 4 月～2028 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

本年度は、全 10 回の例会をすべてオンライン（ZOOM）にて開催した。初年度ゆえ、まずはメンバー全員がお互いの考えを知ることができるよう配慮しつつ、報告の準備の整ったメンバーから順に、本共同研究の課題に沿って話題提供を行うとともに、内 2 回については海外の研究者をゲスト・スピーカーとして招き、英語でのセッションをもった。メンバーのディシプリンの多様性を反映し、各例会では、精神分析、歴史社会学、精神看護学、医学史、音楽学、美学・映画論、環境学、哲学・思想史の

フィールドからの諸問題が提示され、出席したメンバー全員での討論を通じて、それらに検討が加えられた。なお、例会の記録・予定や、例会で提示された資料などを、すべてインターネット上のフォルダにて共有するほか、例会のセッションを原則として録画することで、欠席者もその内容をキャッチ・アップできる体制が整えられた。

研究班員

所内：立木康介、直野章子、森谷理紗、沈恬恬

学外：柿木伸之（西南学院大学国際文化学部）、
片本恵利（沖縄国際大学総合文化学部）、
工藤顕太（人間環境大学心理学部）、正司
孝太郎（人間環境大学看護学部）、杉下佳
文（人間環境大学看護学部）、永井翔（人
間環境大学看護学部）、花田里欧子（東京
女子大学現代教養学部）、福田安佐子（国
際ファッション専門職大学国際ファッ
ション学部）、松本由起子（札幌医療大学
心理科学部）、清野百合（勝田クリニック
／パークサイドこころの発達クリニック）、
金瑛（大谷大学）

研究実施内容

2025 年

- 4月19日 フロイトの「転回」と精神分析の古典
的トラウマ理論 発表者：立木康介
- 5月17日 「新地獄」を描く ― トラウマ理論の批
判的検討 発表者：直野章子
- 6月21日 複数の外傷理論（フロイトとラカン）
― 考察の道具箱として
発表者：立木康介
- 7月12日 声にならないトラウマと精神科におけ
る男性看護師の仕事
発表者：永井 翔（人間環境大学）
- 9月20日 How has trauma become a central
topic in medical anthropology? A
contribution to the history of the
human and social sciences
発表者：DELILLE, Emmanuel
（在ミュンヘンフランス領事館）
- 10月18日 音による追悼の試み ― 企画展「祈り
の森 ― 戦時下の音風景とアートでつ

なく声・語り」の実践について ―

発表者：森谷理紗

- 11月15日 ゾンビ映画を「トラウマ」という観点
から再考する 発表者：福田安佐子
（国際ファッション専門職大学）

- 12月13日 The Subject of Witness: Pacific Dias-
poric Memory in Impossible Times
発表者：Macarena GOMEZ-BARRIS
（Brown University）

2026 年

- 2月21日 神話・悲劇・トラウマ ― ジャック・
ラカンの「カマキリの寓話」をめぐつ
て
発表者：工藤顕太（人間環境大学）
- 3月21日 割れたここに佇む ―「新地獄」から
の詩学へー
発表者：柿木伸之（西南学院大学）

中国近世の文学理論と表現の技法 班長 永田知之

研究期間 2025 年 4 月-2029 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

8 回の例会を開催し、最初の 1 回を共同研究を始めるに際しての総論（会読する文献の解説）、方針の策定に用いた。第 2 回以降の 7 回は会読（文献の日本語訳・注解）に当てた。本年度の会読では、元代の知識人で文学及び書法で名高い陳繹曾が 14 世紀の前半に著した『文筌』を扱った。『文筌』は内容と後世への影響力で元代の文学理論・批評を主題とする文献の中では抜きん出た位置を占め、近世や近代に入ってから後の日本でも漢文の指南書として用いられた。ただ、その意義に比して研究は、特に日本の学界ではごく少ない。同書を章段ごとに区分して、担当者を決め、例会に先立って資料を配布する形で会読を進めた。可能な限りのテキストを用いて本文を校訂し、詳細に注釈を施すことで語義を確定し、暢達な現代日本語による訳文を準備しつつ、4 分の 1 程度を読了できた。これらを整理し、ここまでの訳注を来年度のうちに発表する用意を現に進めている。

研究班員

所内：永田知之、古勝隆一、井口千雪、楊維公

学内：成田健太郎（文学研究科），仲村康太郎（文学研究科），武清陽（文学研究科），徐新源（人間・環境学研究科）
学外：陳佑真（都留文科大学文学部），重田みち（同志社大学宮廷文化研究センター），鄒双双（中山大学外国語学院），成亜男（南京大学文学院）

研究実施内容

2025 年

- 4 月22日 研究班を始めるに当たって－陳繹曾『文筌』初探－ 発表者：永田知之
5 月27日 『文筌』『文筌序』，「古文小譜一・養気法・一 澄神」訳注 発表者：永田知之
6 月24日 『文筌』『古文小譜一・養気法・二 養気』訳注 発表者：楊維公
7 月22日 『文筌』『古文小譜一・養気法・三 立本』訳注 発表者：井口千雪
10月14日 『文筌』『古文小譜一・養気法・五 定志』，「古文小譜二・識題法・一 虚実」，「古文小譜二・識題法・二 抱題」訳注 発表者：永田知之
11月25日 『文筌』『古文小譜二・識題法・三 断題』，これまでの補正 発表者：永田知之
12月23日 『文筌』『古文小譜一・養気法・四 清識』訳注 発表者：陳佑真（都留文科大学文学部）

2026 年

- 1 月27日 『文筌』『古文小譜三・式』訳注 発表者：永田知之

沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析

班長 石井美保

研究期間 2025 年 4 月-2030 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

本年度は，南城市教育委員会の保有する歴史・民俗資料の整理と調査を行うとともに，下記の内容で研究会を開催した。

2025 年

- 5 月20日 「沖縄県南城市におけるデジタルアー

カイブ事業」

新垣瑛士（南城市教育委員会文化課）

- 7 月8日 「本田清コレクション「滴記録（巻一）」（1945 年 12 月～1946 年 9 月 5 日）の概要紹介」 須永哲思

- 11月21日 「南城市佐敷地域における沖縄戦戦没者の葬法，霊魂観，慰霊について－南城市史での調査ノートから－」

井口 学（豊見城市教育委員会）

- 12月3日 「「聖地の近代」試論－南城市での調査および新垣孫一資料からみた斎場御嶽における信仰・戦争・開発」

門田岳久（立教大学）

2026 年

- 2 月16日 「公民館アーカイブとモノ資料－南城市富祖崎公民館所蔵「ジュラルミン製生活道具」を事例に」

高橋そよ（琉球大学）

また，南城市教育委員会の保管する戦争体験者の聞き取り 11 件分の文字起こしを行うとともに，班長の石井と班員の森谷は沖縄戦に関する現地調査を実施した。

研究班員

所内：石井美保，安岡孝一，須永哲思，森谷理紗，李英美，福家崇洋

学内：奥村旅人（教育学研究科），田中瑠莉（人間・環境学研究科）

学外：北村毅（大阪大学），高橋そよ（琉球大学），須田佳実（一橋大学），門田岳久（立教大学），田村卓也（福岡大学），新垣瑛士（南城市教育委員会），井口学（豊見城市教育委員会），大城沙織（沖縄県立博物館）

研究実施内容

2025 年

- 5 月20日 沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析

沖縄県南城市におけるデジタルアーカイブ事業 発表者：新垣瑛士（南城市教育委員会文化課）

- 7 月8日 沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析

人 文 学 報

11月21日	本田清コレクション「滴記録（巻一）」 （1945年12月～1946年9月5日）の概要紹介 発表者：須永哲思	陸・海を跨ぐ近現代日本の環境技術史 ERICSON, Kjell David
	沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析 南城市佐敷地域における沖縄戦戦没者の葬法、霊魂観、慰霊について—南城市史での調査ノートから— 発表者：井口 学 （豊見城市教育委員会）	近現代日本の社会経済と環境 小堀 聡 汚穢と非—秩序をめぐる日常現場の倫理 酒井 朋子 アンシャン・レジーム期フランスにおける自己・感覚・真理 菅原百合絵 近現代日本教育史 須永 哲思 近現代日本の社会運動・社会思想 福家 崇洋
12月3日	沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析 「聖地の近代」試論：南城市での調査および新垣孫一資料からみた斎場御嶽における信仰・戦争・開発 発表者：門田岳久（立教大学）	音とイメージをめぐる戦争体験の想起と、アートを介した新しい歴史継承についての実践的研究 森谷 理紗 共同的認識実践の歴史 岡澤 康浩 近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁 近代歌舞伎における懐古・改良意識および伝統劇化 金 智慧
	2026年 2月16日 沖縄県南城市の歴史・民俗資料の調査と分析 公民館アーカイブとモノ資料—南城市富祖崎公民館所蔵「ジュラルミン製生活道具」を事例に 発表者：高橋そよ（琉球大学）	近代フランス文学・芸術における「遊戯」jeuの再検討 藤野 志織 出入国管理の社会史研究 李 英美 新技術と水の近現代史 太田 知宏 人文学資料に対するエンティティ抽出とリンキング 久保 旭

東方学研究部

個人研究

人文学研究部

西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身体性	石井 美保	川西走廊の漢藏諸語の記述研究 池田 巧
近世社会解体過程の研究	岩城 卓二	中国共産党史の研究 石川 慎浩
イギリス・アイルランド近現代史	小関 隆	「歴史的アフガニスタン」における文化接触と変容 稲葉 穰
環境としての科学技術社会	瀬戸口明久	東アジア仏教美術史の研究 稲本 泰生
近代日本美術と西洋	高階絵里加	仏教研究知識ベース—禅仏教を例として WITTERN, Christian
精神分析的知の思想史的位置づけ	立木 康介	中国注釈学史研究 古勝 隆一
〈非人間〉の歴史と記憶の存在論	直野 章子	中央アジア東部の仏教文化 FORTE, Erika
農業史の再構築	藤原 辰史	インド・中国における仏教の学術と実践 船山 徹
フランス象徴主義と文学的モデルニテ	森本 淳生	10～13世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究 古松 崇志
20世紀における「新音楽」の概念	浅井 佑太	秦漢制度史の研究 宮宅 潔
近代トランスコーカサス（特にグルジア）における	伊藤 順二	近代華南沿海の社会経済制度の変容 村上 衛
匪賊		朝鮮前近代における政治史および政治制度史の研究

彙 報

	矢木 毅	発表者：福家 崇洋
文字コード理論	安岡 孝一	吉田松陰思想における『孟子』と近代
中国近世白話文学の成立過程と受容の様相		司会者：馬場 公彦（北京外国語大学）
	井口 千雪	発表者：張 曉明（北京第二外国語学院）
六朝隋唐仏教史の研究	倉本 尚徳	風土、風土学と新風土論
中国絵画史の研究	呉 孟晋	司会者：唐 永亮（中国社会科学院）
中国中世近世の文学理論	永田 知之	発表者：張 政遠
中国イスラームの研究	中西 竜也	日本思想史における胡適
上古中国語音韻史の研究	野原 将揮	司会者：龔 穎（山東大学）
東アジア伝統科学の研究	平岡 隆二	発表者：武藤秀太郎（新潟大学）
歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究		スペンサーとタイラーの宗教起源論：近代中国と日本における思想的流転
	向井 佑介	司会者：福家 崇洋
中国家具とその使用に関する研究	高井たかね	発表者：彭 春凌
中国古代中世の官制史	藤井 律之	19-20 世紀転換期日本の「田舎紳士」と「支那熱」——「塩田王」野崎武吉郎の東亜同文会留学生派遣をめぐって
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究	宮 紀子	司会者：劉 瑩（中国人民大学）
近世以降日本における中国の戯曲と小説の受容		発表者：中川 未来（愛媛大学）
	楊 維公	日本思想の変遷——丸山眞男と鶴見俊輔を中心に
人文情報学による日本古辞書の研究	李 媛	司会者：劉 岳兵（南開大学）
日本古辞書ポータルサイトの開発による公開研究資源の高度利用	劉 冠偉	発表者：廖 欽彬（中山大学）
ことばとメディアの日中交流の思想史的研究		総合討議
	温 秋穎	司会者：趙 京華（北京第二外国語学院）
		討議者：龔 穎（山東大学）、
		劉 岳兵（南開大学）、唐 永亮、
		範 帥帥（華北電力大学）、劉 瑩、
		馬場 公彦
		福家 崇洋

事業概況

・シンポジウム「東アジアにおける日本思想史——批判的な視座から」

2025 年 4 月 11 日

於 北京大学歴史学系 李兆基人文苑 5 号楼 B117
原郷としての日本、彼岸郷としての日本——空間軸と時間軸から問い直す日本思想

司会者：唐 利国（北京大学）

講演者：山室 信一（京都大学）

儒学近代化問題の学術史の省察——丸山眞男を中心に

司会者：張 政遠（東京大学）

発表者：唐 利国

アジア連帯の継承——宮崎滔天から宮崎龍介へ

司会者：彭 春凌（中国人民大学）

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 4 月 16 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時にオンラインで配信）

Embodied “Invented Tradition”: The Bodily Experience of Qigong in Contemporary China and Japan. 講演者：Huang Xinzhe（立命館大学）

・人文研アカデミー 2025 公開シンポジウム「中ビ連とは何だったか——榎美沙子とリブの 70 年代、そして私たちの時代」

2025 年 5 月 10 日

於 芝蘭会館 稲盛ホール（同時にオンラインで配信）
対談 桐野 夏生（作家・日本ペンクラブ会長）×
嶋田 美子（アーティスト）
司会：木下 千花（京都大学）、
ディスカッサント：直野 章子、
コーディネイター：立木 康介

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 5 月 21 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時にオンラインで配信）
Censorship and Japanese Cinema, 1925-1945. A
Case Study of Mizoguchi Kenji's Sisters of the Gion
(1936) 講演者：木下 千花（京都大学）

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 6 月 13 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時にオンラインで配信）
Comparative Law in Japan: Birth, Development and
Current Trends
講演者：Andrea Ortolani（筑波大学）

・国際シンポジウム：デジタル技術を活用した漢文研究

2025 年 6 月 13 日

於 京都大学総合研究 4 号館講義室（共通 2）
開会式および挨拶
安岡 孝一、金 愚政（檀国大学校）
語彙マッチングツールの開発およびそれを活用した
古典文献テキストの加工
金 愚政、ディビット・ホーク（檀国大学校）、
申 旼穂（檀国大学校）
『日省録』とトピックモデリング
鄭 性勳（慶北大学校）
日本古辞書テキストデータの高度化について
申 雄哲（国立ハンパッ大学校）
古典中国語の係り受け解析 安岡 孝一

CHISE における歴史的漢字情報統合の試み

守岡 知彦（国文学研究資料館）
京大人文研「東方学デジタル図書館」の再構築：
IIIF への対応に向けて 劉 冠偉
閉会式 安岡 孝一、金 愚政

・人文研アカデミー 2025 夏期公開講座「名作再読 17——いま読んだらこんなに面白い」

2025 年 7 月 5 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
（同時にオンラインで配信）
異国のふるさとへの想い— 高野悦子『黒龍江への旅』 楊 維公
ファシズムの時代に抗して— 丸山眞男『現代政治の思想と行動』 福家 崇洋
『中国の赤い星』傑作ルポルタージュの舞台裏
石川 禎浩

・公開合評会「伝記から読む科学者の実践——伊藤憲二『励起——仁科芳雄と日本の現代物理学』」

2025 年 7 月 19 日

対面参加は関係者のみ（同時にオンラインで配信）
司会：岡澤 康浩、河村 賢（大阪経済大学）
主旨説明：瀬戸口明久
コメント：喜多 千草（京都大学）、
小長谷大介（龍谷大学）、瀬戸口明久
リプライ：伊藤 憲二（京都大学）

・人文研アカデミー 2025 ワークショップ「拓本のうそほんと」

2025 年 7 月 19 日

於 人文情報学創新センター 2 階大会議室
【講演】
人文研蔵未公開拓「唐叢碑」について
安岡 素子（京都外国語大学）
改ざんされた墓誌を読み解く
小野木 聡（国際日本文化研究センター）
玄奘三蔵と聖教序 倉本 尚徳
碑法帖入門 ～雁塔聖教序を鑑賞する～

伊藤 滋 (岐阜女子大学)
【ワークショップ】 身近なものの拓を取ろう

・ Kyoto Lectures 2025

2025 年 6 月 13 日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO) ・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
にオンラインで配信)

Images of Fate. Picturing Good and Bad Fortune in
Edo Japans 講演者: Matthias Hayek

(フランス高等研究実習院)

・ 人文研アカデミー 2025 国際シンポジウム「第 4
回 台湾大学・京都大学 人文科学研究会」

2025 年 7 月 26 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
報告 1 「平安時代の寿命経と御読経儀式: 国家儀礼
と信仰実践の交錯」

報告者: 郭 珮君 (台湾大学)

コメンテーター: 倉本 尚徳

報告 2 「陽明文庫本『源氏物語』の本文様相 — 甲
類表紙の諸帖における共通点と相違点 —」

報告者: 林 欣慧 (台湾大学)

コメンテーター: 大津 直子 (同志社女子大学)

報告 3 「『世界の子も 中国朝鮮篇』(平凡社,
1955 年)の編集過程 — 1950 年代の児童用
副教材にみる日本と東アジア」

報告者: 須永 哲思

報告 4 「科学は人間の顔をしていない — 浅田彰と
つくば科学万博」 報告者: 岡澤 康浩

司会: 小堀 聡

・ 人文研アカデミー 2025 研究セミナー「中国生活
文化史研究の諸相」

2025 年 8 月 2 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
(ZOOM ウェビナー併用)

開催挨拶・趣旨説明 名和 敏光 (山梨県立大学)

【発表】

玉座の空間としつらえ — 唐, 宋を中心に

発表者: 高井たかね

収穫から調理まで

『本草蒙筌』考 — 明代の実用的本草 —

発表者: 村上 陽子
(防災専門図書館)

発表者: 西村 陽菜

(文学研究科修士課程修了生)

「恵方巻」の「恵方」と歳徳神について

発表者: 小倉 聖 (大東文化大学)

・ 京都大学人文科学研究所「中日の近代哲学・思想
の交差とその実践」第 17 回共同研究会 国際シ
ンポジウム「東アジア哲学における儒教道の対話
—— 近現代の視点から」

2025 年 8 月 9 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
開会挨拶 福家 崇洋, 鄭 開 (北京大学)

【講演】

中国哲学史, 思想史と学術史研究との関係

講演者: 鄭 開

司会者: 伊東 貴之 (国際日本文化研究センター)

【発表】

近代東アジアの儒教道に登場した他者の視線 —
韓国を中心に

発表者: 朴 洪植 (大邱韓医大学)

司会者: 廖 欽彬 (中山大学)

From Coexistence to Co-becoming: An Ethical
Reinterpretation of Ontological Interdependence in
the Chinese Hua-Yen School

発表者: 巖 瑋弘 (成功大学)

司会者: 石井 公成 (駒沢大学)

近代日本における中国学・東洋学の成立と概念編制

発表者: 伊東 貴之

司会者: 干 春松 (北京大学)

Philosophical Characteristics of East Asian Leader-
ship: Focusing on Confucian Thought

発表者: 高 在錫 (成均館大学)

司会者: 福家 崇洋

『先代旧事本紀大成経』における儒仏神の三教鼎立
思想の形成

発表者: 石井 公成

司会者: 巖 瑋弘

近代東アジア仏教の西洋学への応答と文化的自覚

発表者: 李 海濤 (山東大学)

司会者：郭 旻錫（京都大学）
 世俗倫理教説としての仏教理解——富永伸基『出
 定後語』の位置 発表者：福谷 彬（京都大学）
 司会者：李 海涛（山東大学）
 ベトナム哲学者・黎貴惇の『芸台類語』における理
 氣の形態と修養の工夫

発表者：陳 康寧（成功大学）
 司会者：張 政（中山大學）

【総合討議】

司会者：廖 欽彬
 コメンテーター：鄭 開，干 春松，
 高 在錫，李 樺（中山大學），
 永田 知之，張 政

閉会挨拶

嚴 璋弘

・合評会：藤田正勝『評伝 田辺元 — 私の希求する
 ところは真実の外にはない』（京都大学出版会，
 2025 年）

2025 年 8 月 30 日

於 京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室
 1（同時にオンラインで配信）

登壇者：ロマリク・ジャネル（立命館大学），
 杉村 靖彦（京都大学），鬼頭 葉子（同志社大学），
 竹花 洋佑（福岡大学），廖 欽彬（中山大學），
 藤田 正勝（京都大学）

・Workshop: Vietnam and East Asian Intellectual Currents

2025 年 9 月 20 日

於 Fulbright University Vietnam（同時にオン
 ラインで配信）

【Opening Session】

Welcome Remarks

Nguyễn Nam（Fulbright University Vietnam）

Keynote Speeches: Representatives from Sun Yat-sen University and Kyoto University

【Morning Session (Parallel Panels)】

Panel A — East Asian Thought Across Traditions: Confucianism, Daoism, Buddhism, and Philosophical Reinterpretations

Transcending the Way of King and Hegemon: The Unique Contribution of Daoist Political Philosophy

Zheng Kai（北京大学）

Body, Mind and Consciousness: Comparative Reflections

Yao Zhi Hua（香港中文大学）

Mind-Substance (Xinti) and the Six Classics: The Internal Logic of the Yangming School's View of Classical Studies

Chen Chang（中山大學）

A Tentative Discussion on the Idea of "Using the Spring and Autumn Annals as a New King" in the Zuo Zhuan

Huang Sheng-sung

(National Cheng Kung University)

Phenomenology and Marxism in Derrida: Trần Đức Thảo and Walter Benjamin

亀井 大輔（立命館大学）

Panel B — Reformist Movements, Translation, and Intellectual Shifts in Modern Vietnam

The Tonkin Free School and East Asian Reformist Thought: Modernization, Texts, and Intertextuality

Nguyen Nam

Phan Châu Trinh, Japan and the Discourse of Political Eclecticism

Van Thanh Le

(The Australian National University)

Linh Nam dật sử in Nam Phong: Nguyễn Bá Trắc & Alternative Geographic Imaginaries

Alan Dai（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

Terminology for Vietnamese Language and Chinese Characters on the Journal Tạp chí Nam Phong

岩月 純一（東京大学）

Modern Japanese Asianism and Vietnam

福家 崇洋

【Afternoon Session (Parallel Panels)】

Panel C — Literary and Philosophical Currents in Modern Vietnamese Thought

Vietnamese Intellectuals and the National Issue in Travelogues about East Asia

Nguyen Phuong Thao（Institute of Literature, Vietnam Academy of Social Sciences）

The Co-occurrence of Confucianism — Buddhism — Taoism in Nguyễn Công Trứ's Poems

Đào Thị Hải Thanh & Nguyễn Minh Thu

(Hanoi Open University; Institute of Literature)

Vietnamese Xung: Nôm Prose Translation as a

Local Form of Literary Sinitic Exegesis

大澤 武彦 (国立公文書館)

Albert Errickson (コロンビア大学)

Vietnamese Fūdo Cheung Ching-yuen (東京大学)

Panel D — Transnational Currents and Regional Exchanges

Modernization of Buddhism in Japan, Taiwan, and Vietnam 廖 欽彬 (中山大学)

The Conference of Four Teachings: Towards A Confucian-Christian Alliance

Hoàng Đoàn Trang (University of Social Sciences and Humanities, VNU)

Certain Trends in Research of China's Soft Power in Vietnam Since Early 21st Century — A Paradigmatic Perspective

Trần Thị Thuỷ (Institute of China Studies, Vietnam)

The Early Thought of Thích Nhất Hạnh: His International and Interreligious Relations in View of Christianity

Fujimoto Norimasa (Vietnam Japan University, VNU)

【Closing Discussion & Reflections】

Summary of workshop outcomes

Remarks from co-organizers (Fulbright University Vietnam, Kyoto University, Sun Yat-sen University)

Opportunities for future collaboration

・合評会「中国共産党大解剖」

2025 年 9 月 27 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
(同時にオンラインで配信)

開会挨拶・趣旨説明

石川 禎浩

江田著『中国革命論における民主主義と社会主義』
に対して

三品 英憲 (和歌山大学),

阿南 友亮 (東北大学)

三品著『中国革命の方法』に対して

鈴木 隆 (大東文化大学), 阿南 友亮,

石川 禎浩

周著『中国共産党の神経系』に対して

高橋 伸夫 (慶應大学), 谷川 真一 (神戸大学)

高橋著『構想なき革命』に対して

江田 憲治 (京都大学), 丸田 孝志 (広島大学),

・人文研アカデミー 2025 研究セミナー「禪研究の『いま』」

2025 年 10 月 4 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
(同時にオンラインで配信)開会挨拶・趣旨説明 何 燕生 (郡山女子大学)
京都大学人文科学研究所における禪研究 — 柳田聖
山の業績を読み直す — 何 燕生
『正法眼蔵』はどのように英語に翻訳されたのか？

Wittern, Christian

世阿弥と禪 — 『宗鏡録』が能楽論にもたらしたもの
重田 みち (同志社大学)一休研究の最前線 — 禅学と地政学の観点から —
飯島 孝良 (花園大学)現代新儒家哲学における禅思想 — 禅とウィトゲン
シュタインを最初に結びつけたのは誰か —

齋藤 智寛 (東北大学)

閉会挨拶

Wittern, Christian

総司会：古勝 隆一

・ギャラリー企画展：「折りの森 — 戦時下の音風景
とアートでつなぐ声・語り」

2025 年 10 月 6 日から 10 月 25 日まで

於 立命館大学国際平和ミュージアム 1 階 企
画展示室主催：森谷 理紗, レオニード・ズヴォリンスキー
(ニューメディア・アーティスト, 作曲家)

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 10 月 10 日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO)・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
にオンラインで配信)Globalization of Wine Culture (17-18th centuries):
The Dutch East India Company and the Court
Journey to Edo.

講演者：野沢 丈二 (早稲田大学)

・人文研アカデミー 2025 研究セミナー「21 世紀の
東アジア哲学・思想を考える」

2025 年 10 月 11 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

開会挨拶

福家 崇洋

【講演】

東アジアと世界哲学 中島 隆博（東京大学）

道家の多元論と現代東アジア

林 明照（台湾大学）

気候変動と風土変動 張 政遠（東京大学）

ベトナム研究と二十一世紀の東アジア哲学・思想

廖 欽彬（中山大學）

植民地知識人と「転向」 福家 崇洋

司会者：福家 崇洋，中島 隆博，張 政遠

【総合討議】

司会者：廖 欽彬

コメンテーター：永田 知之

・人文研アカデミー 2025 研究セミナー「筆跡から
わかる！書記の仕事：古文書・木簡により紐解く
日・中の書写の現場」

2025 年 10 月 18 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
（同時にオンラインで配信）

・第 1 部：日本古文書により紐解く書写の現場

史的・文字・字形分析の視点をめぐって — 日本の古文
書を素材として — 宮崎 肇（東京大学）

・第 2 部：中国古代木簡により紐解く書写の現場

中国古代の書写の現場 — 簡牘・文具・環境・書体 —
宮宅 潔

秦始皇帝時代の「文書」ができるまで

畑野 吉則（立命館大学）

草稿をつくる書記たち — 後 2 世紀の木簡から —

飯田 祥子（高知大学）

・人文研アカデミー 2025 京大人文研アーカイブズ
講座「『戦争体験』をいかに伝えるか？記憶と記
録のこれまでとこれから」

2025 年 10 月 26 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

奈良県立図書館と戦争体験文庫のこれまでと現

在 佐藤 明俊（奈良県立図書館情報館）

地域史編さん事業と沖縄戦 — 沖縄県南城市の事例

新垣 瑛士（南城市教育委員会文化課）

展示を通じた戦争体験の継承をめざして

兼清 順子（International Network of

Museums for Peace）

音とイメージによる戦争体験の想起とアートを通じ

た歴史継承の試み

森谷 理紗

コメント・総合議論

コメント：根本 雅也（一橋大学）

司会：李 英美，須永 哲思

・人文研アカデミー 2025 没後 10 年ワークショップ
「鶴見俊輔のコスモロジー」

2025 年 11 月 9 日

於 総合研究 4 号館 1 階共通 1 講義室

基調講演「ノートに何を記したか」

黒川 創（作家）

講演「記憶と人物交流」 鶴見 太郎（早稲田大学）

講演「鶴見俊輔とジャーナリズム思想」

根津 朝彦（立命館大学）

講演「転向論再考」

福家 崇洋

講演「鶴見俊輔文庫の理念」

藤原 辰史

コメンテーター：石井 美保

司会：菅原百合絵

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 11 月 14 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・

イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時

にオンラインで配信）

Frank Lloyd Wright and Japan Revisited: Tradition
al Japanese Culture as a Means to Modern
American Architecture

講演者：Kevin Nute（ハワイ大学）

・シンポジウム「鈴木信太郎の青春 フランス文学
との出会い — 東京帝国大学在学中の受講ノート
より —」

2025 年 12 月 6 日

於 南大塚地域文化創造館 第一会議室

フランス文学者鈴木信太郎と豊島区立鈴木信太郎記念館について

奥村 景子（豊島区立鈴木信太郎記念館）
鈴木信太郎とフランス・ロマン主義文学 — 講義
ノート『文学史概説Ⅲ』をめぐって

学谷 亮（中央大学）
日本美学史の観点から紐解く信太郎の受講ノート
「最近欧州文芸史」

藤貫 裕（京都大学文学研究科）
鈴木信太郎と啓蒙の世紀——『ジャン=ジャック・
ルソー』講義録ノートより 菅原百合絵
コメンテーター：大出 敦（慶應義塾大学）
司会：森本 淳生

・市民共創セミナー「静かなる文化クライシス 未
来世代に近代日本の何を遺すか」

2025 年 12 月 6 日

於 京都大学総合研究 4 号館 1 階 共通 1 講義室
『暮しの手帖』の理論と実践

難波 達己（暮しの手帖社）、藤原 辰史
あまがさきアーカイブズにおける近現代史料の収集
と課題 久保庭 萌（尼崎市立歴史博物館
あまがさきアーカイブズ）
湯川秀樹旧宅の資料保存運動に関わって

岡田 知弘（京都橘大学学長、
京都大学名誉教授）
近世・近代文書の保存・公開 — 法華宗本門流大本
山本興寺所蔵文書を事例に — 岩城 卓二
石牟礼道子旧蔵資料整理プロジェクトに関わって

福家 崇洋
司会：須永 哲思

・田中淳一氏旧蔵文求堂関連資料ワークショップ

2025 年 12 月 13 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階セミナー室
5（報告）、共同研究室 4（資料見学）
ご挨拶 古勝 隆一
資料整理に至る経緯について 高井たかね
資料の概要とその位置付け

楊 慧京（人文科学研究所研究員）

・Kyoto Lectures 2025

2025 年 12 月 15 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時
にオンラインで配信）

There and Back Again: The Literary Journey of
Japanese Science Fiction

講演者：Denis Taillandier（立命館大学）

・尼崎市立歴史博物館第 16 回企画展：「戦後尼崎の
映画・演劇」

2026 年 1 月 10 日から 3 月 29 日まで

於 尼崎市立歴史博物館 3 階 企画展示室
主催：尼崎市立歴史博物館、京都大学人文科学研究
所

・Kyoto Lectures 2026

2026 年 1 月 29 日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・
イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時
にオンラインで配信）

From Metabolism to Post Metabolism: Japanese
Cities between Utopian Visions and Reality in Flux

講演者：Raffaele Pernice
（ニューサウスウェールズ大学）

・第 40 回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セ
ミナー

2026 年 1 月 30 日

於 国立国語研究所（東京都立川市）2F 多目的室
『字庫』の異体字 安岡 孝一
ヘボンの「日本語学習者の視点」—『和英語林集成』
と『日本国語大辞典』の比較から

今村 志紀（国立国語研究所）
食部を例に原本玉篇の典拠情報整理について

李 媛
視覚言語モデルを利用した漢籍用 OCR 実現の試み
守岡 知彦（国文学研究資料館）
日本語語彙評定データの構築：ペイズ線形混合モデル
による分析 浅原 正幸（国立国語研究所）
中世日本語辞書『撮壤集』のデータベース

萩原 義雄 (駒澤大学),
高田 智和 (国立国語研究所)

・人文研アカデミー 2025 研究セミナー「不知火忌
2026」

2026 年 2 月 7 日

於 真宗寺 (熊本市東区健軍 4 丁目 17-45)
生類のみやこはいずくなりや——石牟礼道子の思
想的継承に向けて 藤原 辰史

・人文研アカデミー「近現代天皇制を考える学術集
会 戦後史としての月の輪古墳」

2026 年 2 月 11 日

於 芝蘭会館 稲盛ホール
月の輪古墳と「国民的歴史学運動」再考
高木 博志 (元京都大学人文科学研究所)
映画『月の輪古墳』を読み直す

紙屋 牧子 (玉川大学)
戦後日本共産党の文化政策 福家 崇洋
郷土教育運動と国民的歴史学運動の邂逅・亀裂 —
社会科教科書『あかるい社会』と月の輪古墳
須永 哲思
いたすけ古墳の 1955 年 — 保存運動への転化
今尾 文昭 (元奈良県立橿原考古学研究所)

司会: 小堀 聡

・間文化現象学研究センター講演会

2026 年 2 月 20 日

於 立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図
書館 1 階カンファレンスルーム
フランス象徴主義の理論的射程——マラルメと哲
学者たち 森本 淳生
司会: 亀井 大輔 (立命館大学)

・国際シンポジウム「二十世紀哲学における唯物論
的弁証法の展望——フランスと日本、そして両
者の媒介としてのチャン・デュク・タオ」

2026 年 2 月 20 日

於 立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図
書館 1 階カンファレンスルーム
弁証法の未来——デリダ, メルロ=ポンティ, アド

ルノ アラン・パトリック・オリヴィエ (ナント大学)
ジャック・デリダと チャン・デュク・タオ——
フッサール『幾何学の起源』をめぐる

亀井 大輔 (立命館大学)
物質と記号 黄 雅嫻 (中央大学哲学研究所)
「理論」と「実践」の狭間で——河上肇と「絶対的
非利己主義」への途 福家 崇洋
田辺哲学におけるマルクス

廖 欽彬 (中山大学)
チャン・デュク・タオの弁証法的現象学とその対象
ロマリク・ジャネル (立命館大学)
コメンテーター: 加國 尚志 (立命館大学),
森本 淳生
司会: 亀井 大輔, 廖 欽彬, 福家 崇洋

・Kyoto Lectures 2026

2026 年 2 月 24 日

於 フランス国立極東学院京都支部 (EFEO)・
イタリア国立東方学研究所 (ISEAS) (同時
にオンラインで配信)
Asian Artists in 1920s-1940s Paris: Japanese En-
gagement under the French Colonial Empire
講演者: 稲賀 繁美 (国際日本文化研究センター)

・鶴見俊輔と大衆思想工作 (鶴見俊輔と大衆思想
ワークショップ)

2026 年 3 月 13 日

於 中山大学人文高等研究院
「在日日本人」としての鶴見俊輔
張 政遠 (東京大学)
鶴見俊輔にとってのジャーナリズム思想
根津 朝彦 (立命館大学)
鶴見俊輔と転向論 福家 崇洋
精神史と鶴見俊輔の「転向」研究の方法論

譚 仁岸 (広東外語外貿大学)
廃墟と民主の間——鶴見俊輔 1950 年代の「大衆芸
術」論の生成, 張力, 倫理的転向

陳 言 (首都師範大学)
ヴァナキュラーアートの原点としての「限界芸術
論」 陸 薇薇 (東南大学)
日常生活の思想と公共性——鶴見俊輔の戦後思想

実践を手がかりに 魏 偉（中国社会科学院）
自由について——丸山眞男と鶴見俊輔の比較

商 兆琦（復旦大学）
鶴見俊輔の神話論 高 偉（深圳大学）

鶴見俊輔のアメリカ哲学と大衆思想

廖 欽彬（中山大学）

司会：廖 欽彬，張 政遠，

譚 仁岸，福家 崇洋

総合討論

司会：孫 歌（中国社会科学院文学研究所）

コメンテーター：孫 宏云（中山大学），

楊 小剛（中山大学），

孫 彬（浙江大学）

・京都大学人文科学研究所・萌芽研究「日本語史研究
方法論の深化・刷新」班 成果報告会——日
本語史研究方法論を問う——

2026年3月15日

於 人文科学研究所本館4階大会議室

平家物語研究史を考える

野中 成淳（京都大学）

服部四郎と濱田敦は何をめぐって論争していたのか

河瀬 真弥（京都先端科学大学）

中世萬葉学からみる日本語史研究の方法

古川 大悟（九州大学）

日本語史学・国語史学における文字表記論のあゆみ

—近代から現代へ— 尾山 慎（奈良女子大学）

・Kyoto Lectures 2026

2026年3月16日

於 フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・

イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時

にオンラインで配信）

Renewing Awareness of Music, Culture and

Lifestyle: Punk Rock in Kyoto

講演者：Mahon Murphy（京都大学）

・第21回京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍
SEMINAR「外国人の見た近代中国——異境の
探索者たち」

2026年3月16日

於 学術総合センター内 一橋大学一橋講堂中会
議場

開会挨拶 森本 淳生

イザベラ・バードの見た清末の長江——三峡・チ

ベット・アヘン 村上 衛

耳からの中国と中国語——倉石武四郎の留学・教

育・他者理解 温 秋穎

エドガー・スノーが見たもの、見なかったもの—

『中国の赤い星』余話 石川 禎浩

司会：永田 知之

・令和7年度京都大学人文科学研究所退職記念講演
会「世界の屋根」を歩いたイギリス人たち

2026年3月19日

於 人文科学研究所本館4階大会議室（同時にオ
ンラインで配信）

脱走兵・考古学者・スパイ：アフガニスタンの

チャールズ・マッソン 稲葉 穰

コメンテーター：中西 竜也

西部戦線からヒマラヤへ：エヴェレストのジョー

ジ・マロリー 小関 隆

コメンテーター：藤原 辰史

招へい研究員

・FILIGENZI Anna ナポリ「L'Orientale」大学
教授

アフガニスタンの文化遺産への日本の考古学の
貢献を再評価

（文化生成研究客員部門）

受入教員 FORTE 教授

期間 2025年4月7日～2025年7月6日

・廖 欽彬 中山大学哲学系専任教授

中日の近代哲学・思想の交差とその実践

（文化連関研究客員部門）

受入教員 福家准教授

期間 2025年5月1日～2025年10月31日

・李爾只斤 烏雲畢力格 内蒙古大学民族古典学
高等研究院教授

協議と伝達：西藏档案館所蔵駐藏大臣モンゴル

文档案の形成と乾隆末年までの駐蔵大臣衙門の運営

(文化生成研究客員部門)

受入教員 古松教授

期間 2025年8月1日～2025年10月31日

招へい外国人学者

・廖 欽彬 中山大学教授

中日の近代哲学・思想の交差に関する研究

受入教員 福家准教授

期間 2024年1月1日～2025年4月30日

・HØISÆTER, Tomas Larsen Western Norway University of Applied Sciences 准教授

シルクロードの古代歴史とその役割

受入教員 FORTE 教授

期間 2024年10月7日～2025年7月31日

・張 秀春 上海立信會計金融学院博物館講師
寧波商人の簿記に関する研究

受入教員 村上教授

期間 2025年1月7日～2026年1月6日

・DUCREY, Guy ストラスブール大学教授
フランスのジャポニスム、国際的象徴主義——
1900年の詩学に関する研究

受入教員 森本教授

期間 2025年2月6日～2025年5月5日

・宋 真 公州大学校准教授

秦漢時代の人的資源の管理と券書

受入教員 宮宅教授

期間 2025年3月1日～2026年2月10日

・池 成雨 成均館大学校 Vice President
Cultural and Legislative Response for AI and
Multimedia Age of Japan and Korea

受入教員 瀬戸口教授

期間 2025年4月7日～2025年6月27日

・曹 蓉 上海博物館副研究館員

明代宮廷絵画と浙派絵画に関する研究

受入教員 呉准教授

期間 2025年5月1日～2025年5月31日

・鍾 文博 国立国父紀念館研究典藏組研究員

中国民族主義者と日本の対外拡張主義——孫
文とその友人たち

受入教員 石川教授

期間 2025年6月23日～2025年7月23日

・馬 増栄 香港理工大学助教

漢代出土法律文書の研究：張家山・胡家草場・
睡虎地漢簡を中心に

受入教員 宮宅教授

期間 2025年7月1日～2025年7月31日

・鄒 双双 中山大学准教授

日本における明清志怪小説の翻訳と受容

受入教員 永田准教授

期間 2025年8月7日～2026年8月6日

・HELLMAN, Lisa Karolina ルンド大学教授
近世アジア・ヨーロッパ関係史

受入教員 村上教授

期間 2025年9月30日～2026年5月29日

・薛 軼群 中国社会科学院近代史研究所副研究員
1870-1880年代日本の対清情報収集と在華イ
ギリス人

受入教員 村上教授

期間 2025年10月1日～2026年3月31日

・童 永昌 中央研究院歴史語言研究所助研究員
東アジア世界における宋代の筆記

受入教員 古松教授

期間 2025年10月15日～2025年10月28日

・范 慕尤 上海交通大学准教授

The Sinicization of Chinese Buddhist Transla-
tions and Their Influence Basing upon Newly
Discovered Central Asian Manuscripts

受入教員 船山教授

期間 2025年11月13日～2026年11月12日

・姜 珍亜 漢陽大学教授

「近現代中国における財政国家への模索」の研
究

受入教員 村上教授

期間 2025年12月15日～2026年2月15日

・玄 在煥 Pusan National University 准教授

Japanese Collectors in Colonial Korea and
Postwar Memories of Imperial Natural History
(植民地朝鮮における日本人の鳥獣採集家たち

と帝国博物学の戦後記憶に関する研究：森為三
と折居彪二郎を中心して)

受入教員 瀬戸口教授

期間 2026 年 1 月 5 日～2026 年 2 月 1 日

・金 秉駿 ソウル国立大学教授

岳麓秦簡〔肆〕の再検討

受入教員 宮宅教授

期間 2026 年 2 月 9 日～2026 年 3 月 23 日

・楊 明璋 国立政治大学教授

9-11 世紀の漢伝仏教での経律の通俗宣唱と法
会儀式——敦煌写本を中心に

受入教員 永田准教授

期間 2026 年 2 月 10 日～2026 年 5 月 10 日

外国人共同研究者

・石 放 北京語言大学博士課程

内藤湖南と近代日中書道交流

受入教員 呉准教授

期間 2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日

・閻 志翔 東京藝術大学博士課程

『梵網經』と東アジアの仏教美術

受入教員 稲本教授

期間 2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

・呉 國聖 國立清華大學歴史研究所助理教授

出土西夏語資料の分析に基づく宗教的実践の多
角的考察

受入教員 中西准教授

期間 2025 年 6 月 9 日～2025 年 9 月 2 日

・VALERA PATERNA, Salvador Institute of

History — Spanish National Research Council
(IH-CSIC), FPU Predoctoral Researcher

近世東アジア科学史・対外交流史研究

受入教員 平岡准教授

期間 2025 年 9 月 3 日～2025 年 11 月 28 日

・呂 委弦 National Sun-Yat Sen University 博
士課程

Politics of Chinese Communist Party, Chinese
Communist Party History, Cross-Strait Rela-
tion, Marxism, International Relation Theory,

Lorenz von Stein Thought

受入教員 福家准教授

期間 2025 年 10 月 1 日～2025 年 12 月 31 日

・邱 琬淳 中央研究院中國文哲研究所ポスドク
中国における『法華經』靈驗記を対象としたナ
レッジグラフ構築と叙述分析

受入教員 倉本准教授

期間 2025 年 10 月 31 日～2026 年 10 月 30 日

研 修 員

・王 輝鎔

日本の寺社宝物館における将来文物の位置づけ

受入教員 稲本教授

期間 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

研 究 生

・石垣 章子

漢訳仏典として位置付けられた疑偽經典の成立
と思想の系譜

受入教員 船山教授

期間 2018 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

・山本 茂

漢訳諸文献からみた律藏の研究

受入教員 船山教授

期間 2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

・Lola Bess SIMON

Legacies of Student Protest: History and
Memory of Kyoto's Revolutionary Student
Movement

受入教員 KNAUDT 准教授, 福家准教授

期間 2024 年 9 月 8 日～2025 年 7 月 8 日

・李 莞婷

華中国策会社集団と戦時華中占領地の経済社会

受入教員 村上教授

期間 2024 年 9 月 19 日～2025 年 9 月 19 日

・蘭 原

窺基の瑜伽行唯識派思想の哲学的, 文献学的解

- 明
受入教員 船山教授
期間 2024 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日
- ・張 藍天
王明の政治史に関する研究
受入教員 石川教授
期間 2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日
- ・ハンター・ウィンビー
徳川時代の祇園祭
受入教員 岩城教授
期間 2025 年 2 月 15 日～2026 年 1 月 15 日
- ・奚 湘源
近代東トルキスタン民族運動の挫折 — ハミ蜂
起・汎チュルク主義との相克
受入教員 中西准教授
期間 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
- ・Per Jonas Fikkan Jordfald
From Global to Local: The Church of the East
seen from Turfan
受入教員 FORTE 教授
期間 2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 12 日
- ・高 佳麗
A Phonetic study of Nagasaki Tang Dialect
受入教員 野原准教授
期間 2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日
- ・賈 明卓
Stratification and Classification of Qin-Han
Excavated Texts from the Perspective of
Linguistic Features
受入教員 野原准教授
期間 2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日
- ・KIEL Valerie Nicoletta
Beyond the Sinosphere: Amplifying the Thesau-
rus Linguae Sericae
受入教員 WITTERN 教授
期間 2025 年 9 月 1 日～2026 年 2 月 28 日
- ・成 亜男
東アジアにおける杜詩の受容と古典化
受入教員 永田准教授
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 25 日
- ・孫 法瑞

- マイノリティーとしてのムスリムの宗教思想、
実践とアイデンティティ —— 17-20 世紀エチ
オピアと中国の地域間比較的に研究
受入教員 中西准教授
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
- ・牛 頓
オスマン帝国末期の教育改革と近代中国におけ
るムスリム教育制度改革の比較研究
受入教員 中西准教授
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
- ・劉 睿
漢文遺字の解説：出土簡帛に見る隸定集外字の
デジタル整理・研究
受入教員 安岡教授、劉助教
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日
- ・Sihao (Howard) Mu
On the Margins of Mahāyāna: The *Cheng shi
lun* Tradition in Medieval Chinese Buddhism
受入教員 船山教授
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日
- ・白 敖日格樂
清代モンゴル扎薩克旗の基層社会統治研究
—— 阿勒巴図（アルバト）を中心に
受入教員 古松教授
期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日
- ・Ethan BARKALOW
海岸にあった帝国：植民地朝鮮における海岸環
境と事業
受入教員 瀬戸口教授
期間 2025 年 11 月 1 日～2026 年 10 月 31 日

短期交流学生

- ・王 琳
20 世紀前半の日本による中国東北の植物調査
受入教員 瀬戸口教授
期間 2025 年 7 月 1 日～2025 年 8 月 31 日
- ・李 春蓉
戦時中日本の在中通信員と通信機関の活動研究
(1931-1945)

彙

報

受入教員 村上教授

期間 2025 年 9 月 1 日～2025 年 11 月 30 日

・ ZINBUN number 56

2026 年 3 月刊

出 版 物

紀要

・ 人文学報 第 123 号（紀要第 203 冊）

2025 年 6 月 20 日刊

・ 東方学報 100 冊（紀要第 204 冊）

2025 年 12 月 25 日刊

・ 人文学報 第 124 号（紀要第 205 冊）

2026 年 3 月 31 日刊

研究報告その他

・ 東方学資料叢刊 第 32 冊 京大人文研蔵書印
譜（六） 矢木毅編

2025 年 6 月 30 日刊

・ 人文情報学創新センター研究報告 創刊号 特集
在欧西域絵画模本資料 ― 長谷川路可作品と京
都大学収蔵品 ― 稲本泰生編

2026 年 3 月 31 日刊